

建仁寺両足院所藏聖教目録添足 一

田口 幸滋

禪文化研究所では、二〇一七年から三年間、建仁寺両足院所藏文化財の撮影・調査を行った。かねてより両足院の什物を保管する土蔵については老朽化が懸念されていたが、以前から当院の文化財の整理をすすめていた片山真理子氏（東京藝術大学美術学部附属古美術研究施設非常勤講師）の協働により、二〇一七年から三年を目処に改修・修復工事を行うことが決定し、収蔵される文化財の移動・保管と、調査・研究のため、そのうちの書画関係と図書・聖教類が、花園大学歴史博物館に寄託された。

そこで、二〇一八年一月十一・十七・二十五日、二月七・二十一・二十八日、三月八日、五月三十日、九月三日に、寄託された書画（絵画百七点、書跡九十二点、屏風七点）および工芸品三点（展覧会出品作品）の調査・デジタルカメラによる撮影を、花園大学歴史博物館との共同調査というかたちで実施した。その後、主要禅籍についてもアーカイブ化することとなり、稿者は、その主要禅籍の写真撮影や収納状況の確認などのため、二〇一八年六月から関与し、書函全体の簡単な整理と、八百二件・一八〇一点の撮影を行った。

これら共同調査・研究の成果については、「花園大学歴史博物館開館二十周年記念 両足院―いま開かれ

る秘蔵資料―展を二〇二〇年四月から開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たないことを鑑み、現在、会期等調整中となっている。また、特に学術的・文化的価値が高いと評価される資料については、デジタルアーカイブスとして、ウェブサイトで一般に公開する予定である。

建仁寺塔頭両足院といえ、中国の宋・元時代の版本から、抄物のような古写本などを所蔵する、「建仁寺の学問づら」を代表する学者垂涎の的として知られている。

近代以降の両足院の図書・聖教類の目録に関しては、まず「蔵書目録・明治二十拾年（一八八七）取調」がある。この目録は「第百五十一番」までと、「第百六十番」（最終丁は「第五十八番」の書き損じを使用）からなっている。また、『昭和法寶總目録』三（『大正新脩大藏經』別巻、大蔵出版、一九三四年）に、「七二 建仁寺兩足院蔵書目録」（以下、「昭和法寶總目録本」と称する）が掲載されている。この目録は「第百五十九番」までの著録で、京都帝国大学蔵本の翻刻といわれるが、これとほぼ同内容のものが両足院にも蔵されている。この目録については、たとえば「第四十四番」から「第五十二番」に禅僧の語録が掲載されているが、イロハ順になっているなど、分類・整理された印象をうける。

現在使用されている蔵書目録（以下、「現在所用目録」と称する）は、当院第十九世・佐賀東周師寂後の大正十三年（一九二四）ごろに作成されたものであることが、第二十二世・伊藤東慎師の「瑞溪周鳳の『刻楮集』について」（『禪學研究』第五十七号、花園大学、一九六九年二月）に記載されているが、この目録は「第百八十一番」までの著録となっており、第二十世・後藤東交師以降の住職によって色々な情報が書き込まれながら、現在に至っている。

昭和法寶總目録本と現在所用目録では、二十箱ほどの増加が確認できるが、ここに至る詳しい経緯等については不明である。また、番号の付されていないものもあり、現在は二百におよぶ木箱で構成されている。

近年の両足院図書・聖教類全体を対象とした調査としては、まず、一九五八年から慶應大学斯道文庫による調査とマイクロフィルムによる撮影が開始され、二〇〇九年までの成果について、「慶應義塾大学附属研究所斯道文庫撮影建仁寺両足院蔵書マイクロフィルム目録初編」(『斯道文庫論集』第四十五輯、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、二〇一〇年)としてまとめられており、調査は現在も継統中である。二〇〇六年には京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室等による調査があり、その成果として、木田章義・宮紀子編『両足院…学問と外交の軌跡』(平成十八年度・東方学会関西西部会 京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室等、二〇〇六年)がある。

また、二〇〇四年から二〇一〇年までの七年間、独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部上席研究員(当時)の赤尾栄慶氏が研究代表をつとめ、善本を中心とする解題を付した総目録を作成することを目的に、科学研究費補助金を用い、各分野の専門家を集めて、書誌学的項目と内容に関する悉皆調査(課題番号16320046・19320055)が行われたことにより、研究成果報告書「建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲ」(以下、「建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲ」と称する)という、詳細な書誌学的事項を収録した三冊一具の総目録が作成され、両足院に所蔵される図書・聖教類の全貌を明らかにした。

今回、奇しくも両足院の図書・聖教類の全容を概観するという機会に与り、その結果として、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲで「欠」あるいは「なし」となっていた、「第四十七番」・「第四百十五番」・「第四百八番」、それと別置されていた若干の未紹介図書・聖教類が確認できた。そこで、然るべきかたちを以てその内容を報告しておくべきと考え、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲのつけ足しというかたちで、本稿を草した次第である。報告については二回に分け、今回はまず「第四百八番」と別置されていたもの、次に「第四十七番」と「第四百十五番」を行う予定である。

今回の調査は、「第百八十番」函を二〇二二年一月二十八日から二月一日に、別置本を二〇二二年二月八日、十五日から十八日、三月八日から九日まで、花園大学内において行った。対象としては、「第百八十番」の二箱と、別置として蔵内に置かれていたものを取納した大型のダンボール箱・全八箱、計十箱を対象に行い、その結果、百十七件・二三三三の報告となった。

凡例

- 一、本目録は、建仁寺両足院に所蔵されている図書・聖教類の目録である。
- 一、内容は、別置本を中心とした、百十七件・二三三点である。
- 一、本調査は、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲを底本として使用し、現在所用目録を参照するかたちで行った。
- 一、目録掲載については、まず「第一番」から「第百八十一番」までに収納されているものを函単位で、次に別置されているものという順序で掲げた。なお今回、これまで未紹介の図書・聖教類若干の調査を行ったが、これらについては「番外」とした。
- 一、別置されているものについては、小箱や包紙等によって収納されている状態を一つの「まとまり」ととらえ、その「まとまり」単位(ゴシック体で表記)で掲げて、収納状況に関する情報を併記した。
- 一、「まとまり」の順序は、各々の「まとまり」の中で最初に配列される図書・聖教類が、これまでの目録で確認できる場合、それを優先し、図書、史料、経典類の順に掲げ、整理番号を頭書した。
- 一、また、「まとまり」の中の順列については、まず、その「まとまり」の中にこれまでの目録で確認できる図書・聖教類がある場合には、函の番号を【】に括って掲げ、確認できない場合には、原秩序を尊重して、「まとまり」の中で収納されている順序で掲げた。
- 一、記載内容は以下の項目によった。ただし、該当項目にあたる情報が記載できない場合は省略に従った。

番号 図書・聖教名 刊写 卷数 頁数 著者・編者名 形状 表紙 料紙 法量 紙数 匡
郭 版心 本文 外題 首題 尾題 柱題 刊記・奥書 印記 書入 備考

一、複数の物理的単位をもつものについては、先に総括名称、次いで共通情報を掲げ、以下、物理的単位ごとに個々に関わる情報を記述した。

一、各図書・聖教類の頭にある番号は、各函内および別置の整理番号を示しており、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲで確認できる場合には、それに従った。

一、確認できない場合には、現在所用目録を参照し、番号が特定できる場合については、その番号を〔〕で括って表示した。

一、また、現在所用目録で確認できるものの、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲで特定できない場合には、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲの該当する函の末尾に配列されている図書・聖教類に追加するかたちを採用し、その番号を〔〕で括って表示した。

一、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲおよび現在所用目録で確認できず、対象にこれまでの調査によつて付与されている番号等がある場合には、それに従った。

一、建仁寺両足院所蔵聖教目録Ⅰ～Ⅲおよび現在所用目録で確認できず、対象にもこれまでの調査による番号等が付されていない場合には、未整理図書・聖教類として「番外」扱いとし、仮番号を付した。

一、名称については、図書・聖教類の場合、首題・外題・尾題・柱題の順に従い、無記のものは適宜仮題を付与して「〔〕」で括って表記し、史料の場合、古文書学に基づく名称を付した。

一、稿者が名称を補記する必要があると判断したものについては、「…」を付して「〔〕」で括って記述

した。

一、欠損について、主なものは巻次の後ろに（ ）を付してその中に誌し、その他の欠損に関わる情報については備考欄に記述した。

二、形状は原則として現状を記録し、成立時の形状が改変されていると推定される場合には、その旨を記述した。

一、員数は、冊・帖等で示した。

一、法量は縦×横の順に掲げた。単位はセンチメートル（糎）である。

一、一紙形態のもので、二紙以上にわたる場合には、最大寸法のみを掲げ、他は省略した。

一、紙数については、本体を構成している物理的な紙数を記述した。

一、個々の内容をうかがう手がかりとして、外題・首題・尾題・奥書等の抄出を行った。

一、首題等がみられない場合には、文首・文尾の引用を試みた。

一、これらの引用は、目録という性格上、ある程度の性質や類似するものと区別し得る程度とした。

一、割書や小文字等は（ ）で括って表記し、改行は「／」で示した。

一、虫損・破損等により判読できない場合には、その文字の字数分を□で、字数不明の場合は「 」で示した。また、推測できる場合には（ ）で括って記述した。

一、原文の抹消箇所については「——」で示し、明らかな誤字や特殊な表記等には、（ママ）を付した。

一、解説の表記は常用漢字を原則としたが、原文の引用にあたっては、なるべく現況を伝えるように、可能な限り原文の記述に従った。

一、「禅文化研究所デジタルアーカイブス 禅の至宝」対象資料については、備考欄に「ZDA No. : (整

ある。理番号」と記した。ただし、これらの記号等は、今後の事業の進展によって変更される可能性がある。

一 第百六十八番

54 雲門匡真禪師広録 刊本〔覆宋刊本〕三卷 三冊

〔唐〕雲門文偃撰 守堅編（宋）宗演校

袋綴装（四つ目綴）丹色汜繫ぎ（紗綾形）地雲龍文表紙

（後補表紙）

〔匡郭〕左右双辺・有界 一七・三×一・二一

〔版心〕多くの丁は上黒魚尾のみで魚尾下「雲」卷幾

「丁幾」、部分的に上下下向黒魚尾あり、上魚尾下

「雲」卷幾、「下魚尾下」「丁幾」

〔本文〕漢字 每半葉十一行・一行二十字

〔刊記〕「板在福州鼓山 王溢刊」

〔印記〕各冊卷首「兩足院」（朱陰長方飾枠）

〔書入〕朱点・朱引、朱墨の書き入れあり

〔備考〕覆福州（南宋）刊本で、鎌倉末期の刊行

本紙より天と背に幅を持たせた紙で裏打して

製本

各冊、冊首右下に「主永」の墨書あり

各冊、冊首に「雲門匡真禪師広録 三卷三冊」

唐雲門文偃撰 南宋刊／168:541（3）の記載

（鉛筆書き）のある短冊状の和紙あり

現在所用目録、「雲門廣録（五山）三」と記載

建仁寺兩足院所藏聖教目録Ⅰ～Ⅲでは、「第百六十八番」54号で同書の宋版を掲げているが、調査の結果、覆宋刊本と推定

ちなみに宋版は別置扱いで、蓋箱に「絶海録一全十冊」の貼紙の朱塗りの小箱に収納されており、こちらにも、各冊の冊首に「雲門匡真禪師広録／168:541（3止）」と記載（鉛筆書き）のある短冊状の和紙が挟み込まれている

ZDA No. : 168-29

上：二四・八×一七・二 三十二丁、表紙二紙、遊び紙一紙

〔外題〕「雲門廣録 上」（表紙左上 書き題簽、墨書）

〔首題〕「雲門匡真禪師廣録卷上并序」

〔尾題〕「雲門匡真禪師廣録卷上」／住福州鼓山圓覺

宗演 校勘

〔備考〕表紙に「雲門廣録／上中下3冊／バラ／箱なし」

168」の付箋貼付

中：二四・七×一七・二 四十六丁、表紙二紙、遊び紙一紙

〔外題〕「雲門廣録 中」（表紙左上 書き題簽、墨書）

〔首題〕「雲門匡真禪師廣録卷中」／門人明識大師賜紫

守堅集

〔尾題〕「雲門匡眞禪師廣錄卷中／／住福州鼓山圓覺
宗演 校勘」

〔印記〕卷首「兩足院」(朱陰長方飾枠)
〔書入〕朱点・朱引、欄外・本文中に朱墨の書き入れあり
〔備考〕南北朝期の刊行で、欠損部分に補写あり
建仁寺兩足院所藏聖教目錄Ⅰ～Ⅲの同書の項に

下・二四・八×一七・三 三十二丁、表紙二紙、遊び紙一紙

〔外題〕「雲門廣錄 下」(表紙左上 書き題簽、墨書)

〔首題〕「雲門匡眞禪師廣錄卷下／門人明識大師賜紫

守堅集

〔尾題〕「雲門匡眞禪師錄卷下」

〔備考〕卷末左上に「以雪菴和尚(之本) 写朱墨了矣」

の墨書あり

にあたるものか」に該当
調査時、当該冊のみ薄葉紙に包まれた状態で別
置に混入していたが、確認後もとの箱に返納した
ため、当該図書は十二冊揃となった

一之三三・二七・〇×二〇・三 七十七丁、表紙二紙

〔外題〕「六學僧傳 一之三」(表紙左上 書き題簽、墨書

〔他の冊と同一の筆跡)、題簽下「二」(墨書)

二 第二百七十三番(黒漆塗木箱)
1 新脩科分六學僧傳 刊本 三十卷(一之三) 一冊

(元) 曇暹述

〔尾題〕「新脩科分六學僧傳卷第三」

袋綴装(紙縫留、包背) 茶色表紙(後補表紙)

〔匡郭〕左右双辺・有界 二〇・三×一四・三

〔版心〕双黒魚尾、黒口 上魚尾下「柱題」「卷幾」、下

魚尾上「丁幾」

三 第二百八十番

〔本文〕漢字 每半葉十行・二行二十字

〔備考〕現状、二箱で構成(一・一～25、二・26～49と番外)

各冊の冊首に、名称と番号を記した紙片が挟み込まれており、既に調査が行われていることが推測されるため、当該函の調査は、この記述に従ってすすめた

近代以降の当院住持の私物が混在している可能性あり

1 阿毘達磨發智論 刊本〔唐本〕二十卷 五冊

迦多衍尼子造 (唐) 玄奘訳

線装本(四針眼) 香色表紙(原表紙)

〔匡郭〕左右双辺・有界 一八・〇×一二・五

〔版心〕無魚尾、横単線で三格に分ち、第二格に「柱

題」「卷幾」「丁幾」、第三格象右に「千字文函

号」「卷幾」

〔本文〕漢字 每半葉十行・一行二十字

〔刊記〕「〔中華民國六〕佛曆二千九百四十四」年歲次丁

巳(一九一七)〔陽〕陰(歴)〔十二〕月(八

號)廿四日)節届大雪/常州天甯寺清鎔謹識/

湖北陶舫溪樸

〔柱題〕「阿毗達磨發智論」

〔書入〕第一冊の欄上に鉛筆と黒インク、第二・三冊の欄上に黒インク書による書き入れあり

〔備考〕冊首に「阿毗達磨發智論 / 1891」(5止)」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

卷一之四・二四・〇×一五・二 八十三丁、表紙二紙

〔外題〕「發智論(卷一/之四)」「傍」一至四 第一冊

(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「阿毗達磨發智論卷第一」

〔尾題〕「阿毗達磨發智論卷第四」

卷五之八・二四・二×一五・二 八十一丁、表紙二紙

〔外題〕「發智論(卷五/之八)」「傍」五至八 第二冊

(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「阿毗達磨發智論卷第五」

〔尾題〕「阿毗達磨發智論卷第八」

卷九之十二・二四・二×一五・三 七十四丁、表紙二紙

〔外題〕「發智論(卷九/之十二)」「傍啓」九十二 第

三冊(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「阿毗達磨發智論卷第九」

〔尾題〕「阿毗達磨發智論卷第十二〔說一切／有部〕」

〔備考〕表紙破損

卷十三之十六・二四・二×一五・三 九十七丁、表紙二紙

〔外題〕「發智論〔卷十三／之十六〕」〔啓〕三至六 第四

冊〔表紙左上 原刷り題簽

〔首題〕「阿毗達磨發智論卷第十三」

〔尾題〕「阿毗達磨發智論卷第十六」

卷十七之二十・二四・二×一五・二 八十八丁、表紙二紙

〔外題〕「發智論〔卷十七／之二十〕」〔啓〕七至十 第五

冊〔表紙左上 原刷り題簽

〔首題〕「阿毗達磨發智論卷第十七」

〔尾題〕「阿毗達磨發智論卷第二十〔說一切／有部〕」

2 撰集抄 刊本〔嵯峨本〕 九卷 三冊

〔西行〕記

袋綴装〔四つ目綴〕 白色雲母摺表紙〔原表紙〕 雲母引

料紙

古活字版 無辺無界 一一・一〇×一五・五

〔本文〕漢字ひらがな交じり、二字・三字・四字の連彫

活字 每半葉九行・一行十八字程度

〔備考〕慶長から元和（二五九六～一六二四）の刊行

活字の版下は角倉素庵の筆跡という（昭和女子

大学図書館・桜山文庫本『撰集抄』識語）

川瀬一馬氏『古活字版之研究』（日本古書籍商協

会、一九六七年）に掲載

高木浩明氏「嵯峨本再見…嵯峨本『撰集抄』に

ついでての書誌的報告」（『汲古』四十九号 汲古書

院、二〇〇六年六月）において該書は伝本に含ま

れていない。また、同氏によって指摘される上巻

八ウ・八行目の「物こふ」は、吉田幸一氏蔵・古

典文庫本の系統

巻五第八話「勝円僧正事」の丁上部に「此事載

在妙応集 天明二年／壬寅四月廿二日愚拜／観音

於三井北林院々主法印大／僧都寛寿日云云 因而

註之宝／冠後光蓮台共後日所補 本尊／之長凡四

尺許 即園城寺南院／中北林院之本尊而／今現存

矣 世古景雷謹志」の貼紙（墨書）あり

冊首に「撰集抄／180.21（3止）」と記され

た紙片（薄葉紙・鉛筆書き）あり

昭和法宝総目録本、「第百四十七番」に著録
ZDA No. : 180-02

紙(原表紙)

二六・〇×一八・五 六十七丁、表紙二紙

〔匡郭〕四周单边・有界 二一・八×一四・四

〔版心〕無魚尾 上「柱題」「卷幾」、下「〇」「丁幾」

〔本文〕漢字、句点・返り点・送りがない付、頭注あり

每半葉十一行(注文双行)・一行二十二字

〔外題〕〔標記／増補〕十八史畧 七(表紙左上 原刷

り題簽)

〔首題〕〔立齊^(マツ)先生標題解註釋文十八史略卷之七〕

〔尾題〕〔新刊校正立齋先生標題解註十八史畧卷之七畢〕

〔柱題〕〔標記増補十八史畧〕

〔刊記〕「明治八年(一八七五)十一月十四日版權免許／

同十四年五月十一刻出版／同十六年三月廿八日

再版御届／同^(マツ)同年五月刻成發兌／再校者(故人)

岩垣東園／出版人 川端藤兵衛／出版人

出雲寺文次郎／出版人 藤井孫兵衛

〔印記〕卷首右下部「閏□／之印」(朱陽方印)

〔備考〕冊首に「立齋先生標題解註／釋文十八史略七卷

／存卷七／1803止」と記された紙片(薄葉紙・

鉛筆書き)あり

上:二七・七×二〇・二 五十八丁、表紙二紙

〔外題〕「撰集鈔」(上)「表紙左上 香色行書刷り題簽」

〔首題〕「撰集抄卷第一 西行記」

〔備考〕卷末に「右撰集三卷於大津求之／翻岳／戒光

院」の識語(墨書)あり

中:二七・八×二〇・二 六十五丁、表紙二紙

〔外題〕「撰集鈔」(中)「表紙左上 香色行書刷り題簽」

〔首題〕「撰集抄第四(中)」

下:二七・八×二〇・二 五十丁、表紙二紙

〔外題〕「撰集鈔」(下)「表紙左上 香色行書刷り題簽」

〔首題〕「撰集抄第七(下)」

3 十八史略 刊本 七卷(存卷七) 一冊

(元)曾先之撰 (明)陳殷音釈 王逢点校

袋綴裝(五つ目綴、綴紐脱落) 黄色松皮菱繋ぎ文様表

4 暗号密令・東山左辺老師法語・暗号密令拾遺・拊年譜 刊本 三卷・付年譜 四冊

〔竹田黙雷〕藤田玄路・内村退帯共編

袋綴装(五つ目綴) 茶色表紙(原表紙)

〔匡郭〕四周単辺・無界 二〇・二×一四・一

〔版心〕無魚尾 上方「柱題」「卷幾」を白枠に入れ、

下方に「丁幾」

〔本文〕漢字、句点・返り点・送りがない付 每半葉十

行・一行二十字

〔柱題〕「暗號密令」

〔刊記〕法語・刊記なし、拾遺：「昭和十一年(一九三六)

十一月十日印刷／昭和十一年十一月十五日發行／

：發行者 竹田頴川／印刷者 貝葉書院 河村一

學

〔備考〕冊首に「暗号密令／同拾遺／18941(〜4止)」

と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

卷上・二五・九×一八・六 六十八丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷上」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「暗號密令卷上／東山左邊黙雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷上終」

卷中・二六・〇×一八・五 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷中」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「暗號密令卷中／東山左邊黙雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷中終」

卷下・二六・〇×一八・六 八十三丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷下」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「暗號密令卷下／東山左邊黙雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷下終」

拾遺・二六・〇×一八・七 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令拾遺(拊) 季譜」(表紙左上 原刷り題

簽・及辺)

〔首題〕「暗號密令拾遺／東山左邊老師法語拊季譜」

5 暗号密令・東山左辺老師法語 刊本 三卷 三冊

〔竹田黙雷〕藤田玄路・内村退帯共編

袋綴装(五つ目綴) 茶色表紙(原表紙)

〔匡郭〕四周単辺・無界 二〇・二×一四・一

〔版心〕無魚尾 上方「柱題」「卷幾」を白枠に入れ、

下方に「丁幾」

〔本文〕漢字、句点・返り点・送りがな付 每半葉十行・一行二十字

〔柱題〕「暗號密令」

〔刊記〕「昭和五年（一九三〇）三月一日印刷／昭和五年

三月十五日發行／：發行者 竹田穎川／印刷者

貝葉書院 河村泰太郎」

〔備考〕冊首に「暗号密令／（全3冊）／1865-1（3止）」

と記された紙片（薄葉紙・鉛筆書き）あり

卷上・二六・二×一八・八 六十八丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷上」〔表紙左上 原刷り題簽〕

〔首題〕「暗號密令卷上／東山左邊默雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷上終」

卷中・二六・二×一八・八 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷中」〔表紙左上 原刷り題簽〕

〔首題〕「暗號密令卷中／東山左邊默雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷中終」

卷下・二六・二×一八・八 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷下」〔表紙左上 原刷り題簽〕

〔首題〕「暗號密令卷下／東山左邊默雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷下終」

6 暗号密令・東山左辺老師法語 刊本 三卷（存卷中下）

二冊

〔竹田默雷〕藤田玄路・内村退常共編

袋綴装（五つ目綴）茶色表紙（原表紙）

〔匡郭〕四周单边・無界 二〇・二×一四・一

〔版心〕無魚尾 上方「柱題」「卷幾」を白枠に入れ、

下方に「丁幾」

〔本文〕漢字、句点・返り点・送りがな付 每半葉十

行・一行二十字

〔柱題〕「暗號密令」

〔刊記〕「昭和五年三月一日印刷／昭和五年三月十五日

發行／：發行者 竹田穎川／印刷者 貝葉書院 河

村泰太郎」

〔備考〕冊首に「暗号密令／關卷上／2冊／1866-1（

2止）」と記された紙片（薄葉紙・鉛筆書き）あり

卷中・二六〇×一八・七 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷中」(表紙左上 原刷り題簽)
〔首題〕「暗號密令卷中／東山左邊默雷老師法語」
〔尾題〕「暗號密令卷中終」

〔刊記〕「明治二十四年(一八九二) 四月廿一日印刷／全
年四月廿五日出版／…永田長左衛門」(裏表紙見
返し、「山城屋 藤井佐兵衛」)

卷下：二六・〇×一八・六 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「暗號密令 卷下」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「暗號密令卷下／東山左邊默雷老師法語」

〔尾題〕「暗號密令卷下終」

上：二六・〇×一八・四 四十九丁、表紙二紙

〔外題〕「異部宗輪論述記發軔 上」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「異部宗輪論述記發軔卷上」

〔尾題〕「異部宗輪論述記發軔卷上終」

7 異部宗輪論述記發軔 刊本 三卷 三冊

小山憲栄編輯

中：二六・〇×一八・四 五十丁、表紙二紙

袋綴裝(四つ目綴) 深綠色・四つ割菱繋ぎ地に「文」

〔外題〕「異部宗輪論述記發軔 中」(表紙左上 原刷り題簽)

〔政〕「堂」(原表紙) 表紙見返しに標題紙あり

〔首題〕「異部宗輪論述記發軔卷中」

〔匡郭〕四周单边・無界 一三・八×一六・〇

〔尾題〕「異部宗輪論述記發軔卷中終」

〔版心〕单黒魚尾、下横単線 魚尾下「柱題」「卷幾」、

下横線上に「〇」と「丁幾」、横線下に「本願寺

下：二六・一×一八・四 五十丁、表紙二紙

編輯場藏」

〔外題〕「異部宗輪論述記發軔 下」(表紙左上 原刷り題簽)

〔本文〕漢字、句点・返り点・送りがな・真名注・頭注

〔首題〕「異部宗輪論述記發軔卷下」

付 每半葉九行・一行十九字(注文単行、低一格)

〔尾題〕「異部宗輪論述記發軔卷下終」

〔柱題〕「異部宗輪論發軔」

8 円覚経略疏註 刊本 四卷(存卷上之一) 一冊

(唐) 圭峰宗密述

袋綴装(五つ目綴) 赤茶色表紙(原) 表紙見返しに標

題紙あり

二六・二×一八・六 五十七丁、表紙二紙

〔匡郭〕 四周单边・無界 一八・八×一四・七

〔版心〕 单魚尾 魚尾下「柱題」「卷幾」、下方「丁幾」

〔本文〕 漢字、句点・返り点・送りがな付、頭注あり

每半葉七行(注文双行)・一行十七字

〔外題〕 「上部破損」圓覚経畧疏(乾)〔表紙左上 原

刷り題簽)

〔首題〕 「大方廣圓覺脩多羅了義経略疏註卷上(之ノ

一ノ)

〔尾題〕 「大方廣圓覺脩多羅了義経略疏注卷上(之ノ

一ノ)

〔柱題〕 「圓覺疏」

〔印記〕 最終丁裏左下部、裏表紙見返し右下部に「小

川」(朱陽円)あり

〔備考〕 冊首に「圓覚経畧疏」/「888」止」と記された

紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

9 仏所行讚經 刊本 五卷 二冊

馬鳴菩薩造(北涼)曇無讖訳

袋綴装(五つ目綴) 赤茶色表紙(原表紙)

〔匡郭〕 四周子持ち枠・無界 二一・七×一四・六

〔版心〕 無魚尾 上部「經」、中程「柱題」「卷幾」と

「丁幾」、下部に「典二」(五)とあり、各おの

白枠に入る

〔本文〕 漢字 每半葉十行・一行二十字

〔柱題〕 「佛所行讚經」

〔書入〕 欄上と文中に黒インクによる英語と日本語の書

き入れあり

〔備考〕 版元、刊年記なし(江戸末・明治)

冊首に「佛所行讚經」/「1809-1」(止)と記

された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

上二二六・三×一八・八 八十九丁、表紙二紙

〔外題〕 「佛所行讚經 上」(表紙左上 書き題簽・墨書)

〔首題〕 「佛所行讚經卷第一」

〔尾題〕 「佛所行讚經卷第三」

下二二六・五×一八・八 七十一丁、表紙二紙

〔外題〕「佛所行讚經 下」(表紙左上 書き題簽 墨書)
〔首題〕「佛所行讚經卷第四」
〔尾題〕「佛所行讚經卷第五」

180101(5止)」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書
き)あり

10 法華玄義釈籤傍註 刊本 十卷(存卷第一上)卷第

三上) 五冊

慧澄口授 岩佐普潤編

袋綴装(五つ目、康熙綴) 山吹色表紙(原表紙)

〔匡郭〕四周双辺・無界 二二・八×一六・〇

〔版心〕单黒魚尾、下横線 魚尾上「柱題」、魚尾下

「卷」「第幾」「丁幾」、下横線下「貝葉書院藏板」

〔本文〕漢字、句点・返り点・送りがな・真名注付、頭

注あり 每半葉十行から十二行・一行二十字(注

文単行、低一格)

〔柱題〕「法華玄義釈籤傍註」

〔刊記〕「明治三十二年(一八九九)七月十日印刷/同年

同月十三日出版」(明治三十三年七月一日印刷/

同年同月五日發行、卷第二上と卷第三上の刊記が互い

違い)

〔備考〕冊首に「法華玄義釈籤傍註/卷一上(卷三上)/

卷第一上二二六・三×一八・七 九十八丁、表紙二紙

〔外題〕「法華玄義釈籤傍註 卷第一上」(表紙左上 原刷

り題簽)

〔首題〕「法華玄義釈籤傍註卷第一上」

〔尾題〕「法華玄義釈籤傍註卷第一上(終)」

〔刊記〕「明治三十二年七月十日印刷/同年同月十三日

出版:發行所 貝葉書院」

〔備考〕表紙見返しに覚書(洋紙・インク書)数紙あり

卷第二下二二六・三×一八・八 六十九丁、表紙二紙

〔外題〕「法華玄義釈籤傍註 卷第一下」(表紙左上 原刷

り題簽)

〔首題〕「法華玄義釈籤傍註卷第一下」

〔尾題〕「法華玄義釈籤傍註卷第一下(終)」

〔刊記〕「明治三十二年九月十日印刷/同年同月十五日

發行 法華玄義釈籤傍註/卷第一下奥附:發行

所 貝葉書院」

〔備考〕裏表紙見返しに覚書一紙あり

卷第二上…二六・三×一八・八 六十三丁、表紙二紙

〔外題〕「法華玄義釋籤傍註 卷第二上」(表紙左上 原刷

り題簽)

〔首題〕「法華玄義釋籤傍註卷第二上」

〔尾題〕「法華玄義釋籤傍註卷第二上」(終)

〔刊記〕「明治三十三年七月一日印刷／同年同月五日發

行法華玄義釋籤傍註／卷第三上與附：發行所

貝葉書院」

卷第二下…二六・三×一八・八 九十三丁、表紙二紙

〔外題〕「法華玄義釋籤傍註 卷第二下」(表紙左上 原刷

り題簽)

〔首題〕「法華玄義釋籤傍註卷第二下」

〔尾題〕「法華玄義釋籤傍註卷第二下」(終)

〔刊記〕「明治三十三年四月一日印刷／同年同月十五日

發行 法華玄義釋籤傍註／卷第二下與附：發行

所 貝葉書院」

卷第三上…二六・四×一八・八 六十二丁、表紙二紙

〔外題〕「法華玄義釋籤傍註 卷第三上」(表紙左上 原刷

り題簽)

〔首題〕「法華玄義釋籤傍註卷第三上」

〔尾題〕「法華玄義釋籤傍註卷第三上」(終)

〔刊記〕「明治三十二年十一月廿八日印刷／同年十二月

五日發行 法華玄義釋籤傍註／卷第二上與附：

發行所 貝葉書院」

11 大乘法界無差別論疏 刊本〔唐本〕 二卷 一冊

〔唐〕法藏撰

線裝本(四針眼) 香色表紙(原表紙)

二三・九×一五・二 七十一丁、表紙二紙

〔匡郭〕左右双边・有界 一七・三×一二・三

〔版心〕無魚尾、橫單線で三格に分ち、第二格に「柱

題」「卷幾」「丁幾」

〔本文〕漢字 每半葉十行・一行二十字

〔外題〕「大乘法界無差別論疏」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「大乘法界無差別論疏卷上／唐魏國西寺沙門法藏

撰

〔尾題〕「大乘法界無差別論疏卷下」

〔柱題〕「法界無差別論疏」

〔刊記〕「賀縣于式枚／萍郷文廷式 共施洋銀五十圓／

光緒二十一年(一八九五) 秋八月金陵刻經處鈔板、刊記下に「上海功德林／佛經流通處／」(緑陽方印)あり

〔印記〕 刊記下に「伊藤／東慎」(朱陽方印)あり

〔書入〕 欄上、鉛筆による書き入れあり

〔備考〕 冊首に「大乘法界無差別論疏／180111止」と

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 18012

12 「諸書拔萃録」 写本 一冊

袋綴装(紙縫留) 茶色表紙

二四・八×一八・〇 百三十三丁、表紙二紙

〔本文〕 漢字かな交じり 每半葉九行から十行程度、不定

〔外題〕 「全」(表紙左中ほど 直書、墨書)

〔文首〕 「信筆為寶光書／得月樓前春未饒、青山影裏雪

初消、隔池両樹梅花白、髣髴／孤山第四橋…」

〔文尾〕 「…ひき寄て結べバ芝(柴)の庵なり解れバ元

の野原なりけり」

〔印記〕 冊首、冊尾に「祖傳／之印」「萬念／□(所カ)

下」「釋氏／祖□(傳カ)」「(すべて朱陽方印)あり

〔備考〕 内容は、仏光国師「信筆為宝光書」、「法灯国師擬寒山」、弘法大師「東寺碑文」ほかで構成

冊首に「(偈頌法語等拔書)／180121止」と

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 18012

13 父母恩重經私注 写本 一冊

佐賀閩洲書写

袋綴装(包背) 共紙表紙

二四・九×一六・八 十四丁、表紙二紙

〔本文〕 漢字、返り点・送りがな・カタカナ交じり注記

付 每半葉四行・一行十四字

〔外題〕 「父母恩重經」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕 「佛說父母恩重經」

〔奥書〕 「于時明治三十年(一八九七)／十一月十八日／

大分郡賀來村／萬法山極楽寺／徒佐賀閩洲(印

記)／拜寫之」

〔印記〕 奥書左上、署名下に「桓／紹」(朱陽方印)あり

〔備考〕 冊首に「佛說父母恩重經(注)／180131止

と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-13

14 参暇雜記・自明治二至五年 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二五・三×一八・三 四十三丁、表紙二紙

〔本文〕漢字かな交じり

〔外題〕「参暇雜記」(表紙左 直書、墨書)、また表紙右

上に「明治二己巳八月十日」(表紙右 墨書)の墨

書あり

〔文首〕「十日 参暇拙知事古涯座元新加被申付」

〔文尾〕「:書面間届候事/但シ地代金之議者:」

〔備考〕明治二年(一八六九)八月十日から壬申(同五

年)四月十二日までの記録

冊首に「参暇雜記(明治二年至五年)/180-14-1

止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-14

15 ちまたの石ふみ 写本 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二四・七×一七・五 四十八丁、表紙二紙

〔本文〕漢字かな交じり 每半葉十行程度・一行不定

〔外題〕「知満多能石不美」(表紙左 直書、墨書)、表紙

右下に「□(育カ)女」の墨書

〔文首〕「楚(同)暁の鳴の羽羽かきも、羽者(か)き

君がこぬよ者 王礼ぞかすかく/ぞに打あふハ第

四等の活用也」

〔文尾〕「を(花をみる月をながむる:/ヂヤノニと

心得事)」

〔備考〕拝郷蓮茵による著作の抄録カ

書写者によるものか、表記や説明に、原本と異なる

ところがある

冊首に「ちまたの石ふみ/180-15-1止」と記さ

れた紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

16 聖福寺之事…訴訟状之案文并返書之写 一冊

〔雲外東竺〕筆カ

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二四・五×一七・八 十七丁、表紙二紙

〔外題〕「聖福寺一件」(表紙中央 直書、墨書)

〔首題〕「聖福寺之事訴訟状之案文（并）返書之写」

〔備考〕建仁寺による書状（案）と、黒田家等からの回答をまとめたもので、成立は江戸時代前期とみられる

内容は、雪江朔座元（雪江永朔）下向（年未詳

十月日・建仁住持東堂連署書状案、年未詳十月

二十三日・返簡、年未詳臘月五日・建仁住持東

堂中達（九岩中達）等連署書状案ほか、梅南信首

座（梅南龍信）下向（明暦三丁酉（一六五七）七月

十五日発足）七月十三日・大統院達長老等連署

書状、八月朔日・回答、天桂亮（天桂慈亮）下向

〔万治二年亥（一六五九）（万治二年）五月三日・

大統院達長老等連署書状、覚（一）先年以使僧申

入処、六月朔日付回答、立首座下向（延宝九

年（一六八一）二月二十二日発足、三月二十五日

帰寺）二月二十五日・建仁住持通憲（顕令通憲）

等連署書状案、三月二十五日・口上之覚書（福岡

町奉行衆宛）、三月八日・回書（黒田家）、同（町奉

行）、竺西堂（雲外東竺）下向（延宝九年五月十一

日発足）四月十三日・建仁寺通憲書状案で構成

安国山聖福寺は福岡県にある臨濟宗の寺院。栄

西（一一四）～（一一五）によって創建され、建仁

寺派に属していたが、近世初期に黒田長政（一五六八～一六三三）が九臯宗疇（？～一六一九）を任職に迎えたことにより、それ以降は妙心寺派に属する僧侶が住持をつとめた

ただし、寺伝（小島文鼎編『聖福寺史』聖福寺文庫刊行会、一九六四年）によると、正式に妙心寺派として転派したのは安政四年（一八五七）のことであり、この時の記録が秘蔵されているという

本書は、江戸前期における聖福寺の帰属に関する建仁寺側の記録であるが、これによって、この一件が、江戸時代を通じて行われていたことがわかる

冊首に「聖福寺之事／訴訟状之案文并返書之写／18016-1止」と記された紙片（薄葉紙・鉛筆書き）あり

ZDA No. : 180-16

17 諸彦入寺法語并月舟陞座 写本 一冊

袋綴装（紙縫留） 共紙表紙

二七・八×二一・三 二十丁、表紙二紙

〔外題〕「諸彦入寺法語〈并〉月舟陞座」(表紙右 直書、墨書)

〔文首〕「△雪岩和尚道林語／濟北之道、出乎平常、語默動靜…」

〔文尾〕「…天下蒼生／汝作舟 久立珍重」

〔印記〕卷首「兩足院」(朱陰長方飾枠)

〔備考〕桃山から江戸初期の成立

内容は、雪岩和尚道林語ほか、景徐和尚相国入

寺法語、正宗和尚東山入寺法語、慈照院殿三十三

回忌陞座(月舟寿桂)で構成

冊首に「諸彦入寺法語／并月舟陞座／180-17-1

止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-17

18 授戒式 写本 一冊

袋綴装(紙縫留・包背) 共紙表紙

二八・〇×二一・〇 四 三十丁、表紙二紙

〔外題〕「授戒式」(表紙左 直書、墨書)

〔文首〕「△當日莊嚴道場、安置五師及祖像護法神等…」

〔文尾〕「…婦／堂、次比丘尼、次優婆塞優婆夷」

〔備考〕明治期の成立

冊首に「授戒式／180181止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-18

19 「諸書拔萃録」東陵和尚語ほか 写本 一冊

東陵永瑛ほか

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二八・五×二一・〇 十九丁、表紙二紙

〔文首〕「東陵和尚住天龍資聖禪寺入院語〈觀應二年辛

卯(一三五)八月十九日〉／山門…」

〔文尾〕「…乃祖單傳之旨光分万象榮及諸鄰／謹疏／今月

日疏」

〔備考〕建仁寺兩足院所藏聖教目錄Ⅰ、Ⅲ、「第

百六十四函」番外2号「道号表」と同形態

内容は、東陵和尚(東陵永瑛)住天龍資聖禪寺

入院語〈觀應二年辛卯八月十九日〉、龍山和尚

(龍山徳見)住建仁寺疏 古鏡千(古鏡明七)、諸山

疏 此山在(此山妙在)、東陵和尚住天龍資聖禪寺

山門疏 菊趣園(菊趣慧園)、「書夢窓国師天龍十

境頌卷末」、「跋夢窓国師雲居三塔頌軸」、十月旦
 祭開山(夢窓)国師、東陵和尚住南禅寺入院佛事
 (觀應三年四月八日)、深都寺秉炬、□都官、徳
 監寺、固山和尚住天龍疏(觀應三年四月) 古元、
 『夢中間答再跋(竺仙梵僊)』等で構成

冊首に「東陵永璵他法語并疏/集成/180-19-1
 止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

東陵永璵の語については、玉村竹二編『五山文
 学新集』別卷二(東京大学出版会、一九八一年)所
 収の『璵東陵日本録』の底本である東京大学史料
 編纂所蔵の謄写本(上村觀光氏原蔵)との異同が確
 認でき、また、此山妙在や古源邵元等による疏な
 ども録されてゐる

ZDA No.: 180-19

20 「禅林著作表:イロハ順」 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二八・〇×二一・〇 二十七丁、表紙二紙

〔文首〕「イ(井) / 一代經論總釋 榮西禪師:」

〔文尾〕「嵩山録三(文明十四写/内閣藏)」

〔備考〕建仁寺両足院所藏聖教目録Ⅰ〜Ⅲ、「第百六十四
 函」番外2号「〔道号表〕」と同形態
 冊首に「禅林著作一覽 イロハ分け」/180-
 20-1//と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり
 ZDA No.: 180-20

21 「禅僧法諱下字表:五十音順」 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二八・〇×二一・五 十五丁、表紙二紙

〔文首〕「祖阿(應永八年奉義満命使明:」

〔文尾〕「南洲 珍(西□)」

〔備考〕建仁寺両足院所藏聖教目録Ⅰ〜Ⅲ、「第
 百六十四函」番外2号「〔道号表〕」と同形態
 冊首「〔禅僧法諱一覽/五十音分け〕/180-21-1
 止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き) ZDA

No.: 180-21

22 梵文聞書(悉曇抄) 写本 一冊

袋綴装(四つ目綴) 薄茶色(もと縹色系カ) 表紙

二三・五×一五・三 二十四丁、表紙二紙

〔外題〕「梵文聞書〈□(私カ)〉／聖應之／純教房」(表

紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「梵文聞書」

〔奥書〕「」永正十六年「」(己卯カ、一五一九)十

月十七日「」(ノ夜)子尅書畢

〔備考〕本紙、裏打ち補修。虫損甚だし

冊首に「梵文聞書／18022」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き)あり

23 菅神渡宋伝衣画像記 写本 一冊

鷹峰卍山(卍山道白)作

袋綴装(紙経留) 二五・二×一六・八 二紙

〔首題〕「渡宋天神傳衣画像記」

〔備考〕「鷹峰卍山和尚広録」卷第二十六に収録

冊首に「渡宋天神傳衣画像記／180231止」と

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 18023

24 莊子内篇註 刊本(唐本) 四卷(存卷上之一至二)

一冊

(明) 憨山德清註

線装本(四針眼) 香色表紙(原表紙)

二三・五×一五・一 七十丁、表紙二紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 一六・五×二二・三

〔版心〕横単線で三格に分割、第二格「柱題」「卷幾」・

右小字「小題」・「丁幾」、第三格象鼻右「素七」

〔本文〕漢字 每半葉八行・一行二十字

〔外題〕「莊子内篇註〈卷一之□(破損)〉」(表紙左上

原刷り題簽)

〔首題〕「莊子内篇註卷之二／明匡廬逸叟憨山釋德清註」

〔尾題〕「莊子内篇註卷之二」

〔柱題〕「莊子内篇註」

〔印記〕表紙見返し「上海功德林」(赤陽横長方印)、卷

末「上海功德林」(赤陽横長方印)、「伊藤」(朱陽

円印)、識語署名部分「伊藤／東慎」(朱陽円印)

〔書入〕欄上・本文中に訓点や注記などの書き入れあり

(墨インク書き、鉛筆書き)

〔備考〕卷末に「龍大予科三四 建仁寺阿足院 伊藤東

慎」の墨書あり

冊首に「莊子内篇註／存卷一至二／180241
止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

上巻裏表紙見返し、下巻表紙見返しに「明治
四十三年九月求之／杉浦秀賢」の墨書あり
冊首に「評註老子道德經／180251(〜2止)』
と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

25 纂訂評註老子道德經 刊本 二卷 二冊

〔宋〕蘇轍解 (元) 吳徵註 (日本) 木山槐所編

袋綴装(四つ目綴) 朱色疋繫ぎ(紗綾形) 地表紙(原表
紙)

〔匡郭〕四周双辺・有界 一七・一×一・六

〔版心〕単黒魚尾、白口 魚尾上「柱題」、魚尾下「卷

幾」「丁幾」

〔本文〕漢字、句点・返り点付 每半葉九行・一行十六

字(注文双行)

〔柱題〕「老子道德經」

〔刊記〕「明治廿三年八月廿一日印刷出版／明治廿三年

九月一日貳版發行／明治廿六年三月一日三版發

行」

〔印記〕「杉浦」(朱陽椿門印)

〔備考〕上巻表紙見返し、「宋蘇轍元吳徵註／日本木山

槐所編／〔訂／正〕第參版／評註老子道德經／

版權所有 松山堂藏版」とあり

上：二二・七×一五・〇 四十丁、表紙二紙

〔外題〕「木山／鴻吉／編纂」評註老子道德經 上」(表

紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「纂／訂」評註老子道德經卷上／宋 眉山蘇轍

子由解／日本東京木山鴻吉編」

〔尾題〕「纂／訂」評註老子道德經卷之上終」

下：二二・七×一五・一 四十二丁、表紙二紙

〔外題〕「木山／鴻吉／編纂」評註老子道德經 下」(表

紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕「纂／訂」評註老子道德經卷之下／宋 眉山蘇

轍子由解／日本東京木山鴻吉編」

〔尾題〕「纂／訂」評註老子道德經卷之下(大尾)」

26 詩語碎金 刊本 二巻 一冊

泉要編 石作貞訂正

袋綴装(六ツ目綴) 赤茶色表紙

二二・五×一四・八 六十四丁、表紙二紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 一六・二×一・七

〔版心〕単黒魚尾、下横単線、白口 魚尾上「柱題」、

魚尾下「巻之幾」、下横線下「丁幾」

〔本文〕漢字・採録語の左にカタカナで振り仮名、右に

平仄、下に語意を施す 每半葉十行

〔外題〕「詩語碎金 全」(表紙左 直書、墨書)

〔首題〕「詩語碎金巻之上／東都 泉 要士徳 編纂／

信陽 石作貞士幹 訂正」

〔尾題〕「詩語碎金巻之下〈終〉」

〔柱題〕「詩語碎金」

〔刊記〕安永五年(一七七六) 跋

〔書入〕欄上・本文中に墨書・朱書の書き入れあり

〔備考〕後遊び紙に、「潤月求之／慶應三龍舎丁卯萩月

初賞／久悲破損再造作文／萬成寺弟子」、異筆

「夢窓軒／樵隱齋」「惠啓」の墨書あり

冊首に「詩語碎金／180-26-1止」と記された紙

片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

27 「臨濟宗九派寺院名簿」七冊

袋綴装(紙縫留)

〔備考〕明治十一年(一八七八)三・四月ごろの成立

明治五年(一八七二)、明治政府によって仏教諸

宗は七宗(天台宗・真言宗・浄土宗・禪宗・浄土真

宗・日蓮宗・時宗)に統合されたが、同七年には

「臨濟宗一宗独立許可」が出て臨濟宗と曹洞宗と

なり、同九年には九派(天龍寺派・相国寺派・建仁

寺派・南禪寺派・妙心寺派・建長寺派・東福寺派・大

徳寺派・円覚寺派)が独立した。当該史料は九派

当時、各地の中教院から明治政府へ提出したとみ

られる寺院名簿

各冊、冊首に〔無題〕／180-27-1(一7止)と

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-27

第一冊：二六・〇×二〇・〇 六十四丁、表紙二紙

〔外題〕「臨濟宗九派寺院表(六冊之内)」(表紙左 直

書、墨書)、「東京府／神奈川縣／山梨縣／静岡

縣」(表紙中央 直書、墨書)

第二冊：二五・七×一九・五 四十七丁、表紙二紙

〔外題〕「臨濟宗九派寺院表〈六冊之内〉」(表紙左 直書、

墨書)、「埼玉縣 秋田縣／群馬縣 青森縣／長

野縣 岩手縣／新潟縣 宮城縣／山形縣 福島

縣／栃木縣 千葉縣／茨木縣」(表紙中央 直書、

墨書)

第三冊：二五・八×一九・四 六十七丁、表紙二紙

〔外題〕「臨濟宗九派寺院表〈六冊之内〉」(表紙左 直

書、墨書)、「岐阜縣／愛知縣／三重縣／和歌山縣」

(表紙中央 直書、墨書)

第四冊：二五・六×一九・五 二十二丁、表紙一紙

〔外題〕「臨濟宗九派寺院表〈六冊之内〉」(表紙左 直書、

墨書)、「岡山縣／廣島縣／島根縣／山口縣」(表

紙中央 直書、墨書)

第五冊：二五・三×一九・五 四丁、表紙二紙

〔首題〕「山口縣中教院所轄寺院簿」

第六冊：二五・八×一九・三 三十二丁、表紙一紙

〔外題〕「臨濟宗九派寺院表〈六冊之内〉」(表紙左 直

書、墨書)、「愛媛縣 熊本縣／高知縣 長崎縣／

大分縣／福岡縣」(表紙中央 直書、墨書)

第七冊：二五・〇×一九・五 十九丁、表紙一紙

〔文首〕「福岡縣下中教院所轄大德寺派簿」

〔文尾〕「長崎縣下佐賀／明治十一年四月 臨濟宗中教

院／内務卿大久保利通殿」

〔備考〕「臨濟宗大教院」の罫紙

28 「禪三派寺院住職名簿」 六冊

袋綴装 (紙縫留)

〔備考〕明治六年(一八七三)五月六月ごろの成立

明治五年からの禪三派(臨濟宗・曹洞宗・黃檗

宗)時代の寺院名簿で、地方の触頭寺院などから

提出させたものとみられる

各冊、冊首に「無題」／180281(～6止)と

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-28

第一冊：二六・七×一九・五 三十六丁、表紙二紙

〔外題〕「豊岡縣下禪三派名簿」(表紙左 直書、墨書)、

「イ」(表紙左上 朱書)

第二冊：二七・〇×一九・五 十五丁、表紙二紙

〔外題〕「鳥取縣下禪三派名簿録」(表紙左 直書、墨書)、

「ロ」(表紙左上 朱書)

第三冊：二八・二×二〇・二 七丁、表紙二紙 二十二丁、

表紙二紙

〔外題〕「島根縣下臨濟派名簿(洞派合冊(朱書))」(表

紙左 直書、墨書、「ハ」(表紙左上 朱書)

〔備考〕二冊合冊

第四冊：二七・〇×一八・五 八丁、表紙二紙

〔外題〕「濱田縣 □山ノ分 濱田 津和野合冊」/禪

三派/寺院住職姓名簿」(表紙中央 直書、墨書、

「ニ」(表紙左上 朱書)

第五冊：二五・〇×一七・八 八丁、表紙一紙 六丁、表紙

一紙 八丁、表紙一紙

〔外題〕「濱田縣下/禪三派/寺院住職姓名簿」(表紙中

央 直書、墨書)

〔備考〕三冊合冊

「濱田縣管下岩見國 那賀郡」、「鹿足郡」
などの罫紙使用

第六冊：二五・五×一七・三 十五丁

〔外題〕「ト」(表紙左上 朱書)

〔首題〕「臨濟/小田縣兩派名簿(清書)〇差返り之物

此分少々書損有」(本紙右上 墨書)

〔備考〕「小田縣小教院」の罫紙使用

29 禅三派名員録：「禅三派寺院住職名簿」一括

「一、一括紙糸留(一：未装(紙包)、二：袋綴装(紙縫留))

〔備考〕一の包紙：因州鳥取龍峰寺差出、両足院宛の郵

便包紙

禅三派(臨濟宗・曹洞宗・黄檗宗)時代の名簿

で、28の清書とみられる

各冊、冊首に「〔無題〕/180-291(〜2止)」と

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-29

一：二八・〇×二〇・〇 九十七紙

〔首題〕「豊岡縣下禪三派名員録」

二：二八・〇×二〇・〇 二十二丁

〔首題〕「山口縣下禪三派名員録」

〔外題〕「豊岡縣禪三派試補願書」(表紙左 直書、墨書、

「壹」(表紙左上 朱書)

第二冊：二七・一×一九・三 三十一丁、表紙二紙

〔外題〕「鳥取縣下禪三派試補願書」(表紙左 墨書、「貳」

(表紙左上 朱書、「口」(表紙右上 墨書)

第三冊：二六・六×一九・〇 十二丁、表紙一紙 二十五丁、

表紙一紙

〔外題〕「島根縣下濟派(洞派別冊 合冊)／試補打合

〔並〕願書」(表紙中央 直書、墨書、「三」(表紙

左上 朱書)

〔備考〕二冊合冊

第四冊：二四・五×一六・八 十五丁、表紙一紙

〔外題〕「濱田縣下臨濟派／洞家共」／教導職試補撰舉」

(表紙中央 直書、墨書、「四」(表紙左上 朱書)

〔備考〕「濱田縣管下岩見國 那賀郡」、「鹿足郡」

などの罫紙を使用

ZDA No. : 180-30

記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

各冊、冊首に「(無題)／180-30-1(10丁)」と

のとみられる

〔備考〕明治六年(一八七三)六月の成立で、大教院宛

明治政府は、一般の神官・僧侶を補して教導職

とした。当該史料はその選挙における願書・名簿

で、地方の触頭寺院や本寺などから提出させたも

30 「禪三派教導職試補撰拳願書并名簿」 十冊

袋綴装(紙縫留)

第一冊：二七・〇×一九・六 四十七丁、表紙二紙

第五冊：二五・〇×一七・六 九丁

〔首題〕「山口縣下試補」、「五」(左上 朱書)

〔備考〕「中教院明道學舎」の罫紙を使用

第六冊：二五・九×一七・七 十二丁、表紙一紙 六丁、表

紙一紙

〔外題〕「廣島縣管下禪宗試補撰舉名簿〈轉級願共〉」(表

紙中央 直書、墨書)、「六」(表紙左上 朱書)

〔備考〕二冊合冊

「廣島縣中教院」の罫紙を使用

第七冊：二五・〇×一七・四 七丁

〔首題〕「小田縣下兩派試補」、「七」(左上 朱書)

〔備考〕「小田縣小教院」の罫紙

第八冊：二四・四×一六・六 四丁

〔首題〕「北條縣下三派試補」、「八」(左上 朱書)

第九冊：二五・〇×一七・七 九丁、表紙一紙

〔外題〕「教導職試補撰舉／臨濟派」(表紙中央 直書、墨書)、「當分不用 山口縣ナリ 見合(セニ)入

(ルモ) シレン」(表紙右 墨書)、「番外」(表紙左

上 朱書)

〔備考〕「濱田縣管下岩見國 那賀郡」、「中教院明道學

舎」の罫紙

第十冊：二四・三×一六・五 十四丁

〔首題〕「撰舉試補」(表紙右 墨書)、「番／外」(左上 朱書)

〔備考〕第一葉右上に「廣島縣草案之分 本紙別(ニ)

有」(墨書)と認められる

「廣島縣中教院」の罫紙

31 「臨濟宗教導職名簿」訓導 一冊

九本山事務所職務課

袋綴装(紙縫留)

二八・四×二〇・三 五十一丁、表紙一紙

〔外題〕「訓導／九本山事務所／職務課」(表紙中央 直

書、墨書)

〔備考〕「教導職「訓導」の名簿

補明治五年(一八七二)七月九日～十四年二月十日

「臨濟宗」の罫紙

冊首に「(無題) / 180-31-1止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き) あり

ZDA No. : 180-31

33 幼学詩韻 刊本 一冊

成徳隣伯敬・檜長裕君益編輯

袋綴装(四つ目綴) 縹色表紙(原)

二一・三×一四・四 五十四丁、表紙二紙

〔匡郭〕 左右双辺・有界 一五・四×一一・四

〔版心〕 単黒魚尾、下横単線、白口 魚尾上「柱題」、

魚尾下「巻幾」、下横線上「丁幾」

〔本文〕 漢字・採録語の左にカタカナで振り仮名、右に

平仄、下に語意を施す 毎半葉九行

〔外題〕 「幼(題簽破損) 完」(表紙左上 原刷り題簽)

〔首題〕 「幼學詩韻 / 北總 / 成徳隣伯敬 / 檜長裕君益 / 編輯」

〔尾題〕 「幼學詩韻〈終〉」

〔柱題〕 「幼學詩韻」

〔刊記〕 「享和二壬戌年(一八〇二) 正月 / 江戸書林…」

〔備考〕 表紙に「東福禪寺 / 通天橋(二面) 夜座

「」、裏表紙に「東福僧堂 / 聖侍「」の墨

書あり

冊首に「(無題) / 180-33-1止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き) あり

32 「臨濟宗教導職名簿…權訓導」 一冊

九本山事務所職務課

袋綴装(紙縫留)

二八・三×二〇・三 七十二丁、表紙二紙

〔外題〕 「權訓導 / 九本山事務所 / 職務課」(表紙中央 直

書、墨書)

〔備考〕 教導職「權訓導」の名簿

補明治五年(一八七二) 四月二十九日〜十二年

十一月二十一日

「臨濟宗」の罫紙

冊首に「(無題) / 180-32-1止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き) あり

ZDA No. : 180-32

34 幼学詩韻 刊本(欠首尾) 一冊

成徳隣伯敬・檜長裕君益編輯

袋綴装(紙縫留) 一三・二×一五・二 四十九丁

〔匡郭〕左右双辺・有界 一五・五×一・一

〔版心〕单黒魚尾、下横単線、白口 魚尾上「柱題」、

魚尾下「卷幾」・右小字「小題」、下横線下「丁

幾」

〔本文〕漢字・採録語の左にカタカナで振り仮名、右に

平仄、下に語意を施す 每半葉九行

〔首題〕「幼学詩韻／北總／成徳隣伯敬／檜長裕君益／編

輯」

〔柱題〕「幼学詩韻」

〔印記〕冊首右下「佐賀」(朱陽円印)、同欄上「藤田」

(朱陽円印)、「義春」(朱陽円双枠)

〔備考〕33とは版が異なる

冊首に「(無題)／189341止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き)あり

袋綴装(紙縫留) 二二・〇×一四・八 五十二丁

〔匡郭〕左右双辺・有界 一六・〇×一・八

〔版心〕单黒魚尾、下横単線、白口 魚尾上「柱題」、

魚尾下「卷幾」・右小字「小題」、下横線下「丁

幾」

〔本文〕漢字・採録語の左に返り点、右に仄声、下に語

意を施す 每半葉十行

〔首題〕「幼学詩韻三編／永溪 小里景儔子朋／靈鳳

吉田清 士廉／同輯」

〔柱題〕「幼学詩韻三編」

〔印記〕冊首中央下部、目録下「佐賀」(朱陽円印)

〔備考〕冊首に「(無題)／189351止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き)あり

36 新編文語碎金 刊本 二卷(存卷上) 一冊

太田屋頭編

袋綴装(四つ目綴) 茶色表紙(もと標色カ)

二一・五×一五・二 六十五丁、表紙二紙

〔匡郭〕四周双辺・有界 一七・六×一・〇

〔版心〕单黒魚尾、下横線、白口 魚尾上「柱題」、魚

35 幼学詩韻三編・附幼学詩話 刊本(欠首尾) 一冊

小里景儔・吉田清輯 東条耕閑

尾下「卷之幾」、下横線上「丁幾」

〔本文〕漢字・採録語の左に送り点、右に送りがない、下に語意を施す 每半葉十行

〔外題〕「新編文語碎金」(表紙左上 書き題簽)

〔首題〕「新編文語碎金卷之上」太田屋頭 編輯

〔尾題〕「新編文語碎金卷之上」(畢)

〔柱題〕「新編文語碎金」

〔備考〕冊首に「(下冊なし) / 180361止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

〔刊記〕「文化十癸酉歲(二八二三)春新刻 / 天保十三壬寅(一八四二)春再刻 / 安政三丙辰歲(一八五六)

冬三刻 / 書林 :」

〔印記〕上下とも冊首に「法幢山」(朱陽円印)

〔備考〕叢書名の記載なし

上巻尾欠、下巻裏表紙欠落

冊首に「(無題) / 180371 (〜2止)」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

上・一八・二×二・二・八 四十二丁、表紙一紙

〔外題〕題簽剥落(表紙左上)

〔首題〕「孟子 朱熹集註」

〔尾題〕欠落

37 孟子(校正訓点四書) 刊本 二卷 二冊

(宋) 朱熹集註

上・綴紐脱落、下・袋綴装(紙縫留) 臙脂色巾繫ぎ(紗綾形) 文表紙(原表紙)

〔匡郭〕左右双辺・有界 一五・五×一〇・二

〔版心〕单黒魚尾、黒口 魚尾上「柱題」、魚尾下「卷

之幾」、右小字「小題」・「〇」・「丁幾」

〔本文〕漢字、句点・返り点・傍訓付 每半葉九行・一行十八字

〔柱題〕「孟子」

下・一八・二×二・二・八 七十二丁、表紙一紙

〔外題〕「改正 / 孟子 下(左側上部剥落)」(表紙左上 原刷り題簽)

〔尾題〕「孟子大尾」

38 論語集註 刊本〔唐本〕 十卷(存卷七至八) 一冊

〔宋〕朱熹集註

線装本(四針眼、綴紐脱落) 茶色表紙(原表紙)

二〇・〇×一三・四 三十三丁、表紙二紙

〔匡郭〕四周双辺・有界 一四・九×一〇・四

〔版心〕单黒魚尾 魚尾上「柱題」、魚尾下「卷幾」「丁幾」

〔本文〕漢字、句点付 每半葉九行・一行二十字(注文

双行)

〔外題〕「論語集註」(子路 憲問/衛靈公 季氏)〔表紙

左上 外題印刷)

〔首題〕「論語卷之七 朱熹集註」

〔柱題〕「論語」

〔備考〕紙力低下のため取扱注意

冊首に「全10巻のうち/巻78のみ/189381

止」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

39 〔略韻〕 刊本(存下平侵十二至嚴凡十六) 一冊

袋綴装(四つ目綴、綴紐脱落) 灰色表紙

一八・〇×一二・八

〔匡郭〕四周单辺・無界 一六・〇×一〇・三

〔版心〕双花口魚尾 上魚尾下「韻目」・「〇」「丁幾」

〔本文〕漢字、返り点・送りがない

〔文首〕「侵十二」【乾】潯(水深也、又水厓也…)」

〔文尾〕「」〇稜嚴咒」

〔書入〕朱点・朱引、欄上・本文中に墨書・朱書の書き

入れ

〔備考〕本紙固着のため披見不可

冊首に「〔無題〕/180391止」と記された紙片

(薄葉紙・鉛筆書き)あり

40 「明治初年仏教政策関係文書」 七点

袋綴装(紙縫留)・一紙形態混在、薄葉紙包

〔備考〕明治初期の宗教政策に関する文書の控など

収納される薄葉紙に、「〔明治初期大教院/関係

書類〕/18040(7点)〃」と記された紙片(薄

葉紙・鉛筆書き)あり

当時の建仁寺管長は、当院第十五世・荆叟東

攻。これらは、それに関連するものと推測される

ZDA No.: 18040

- 一：「覚書」(教院の規則に付) 横帳
 二二・五×三二・四 一二丁
- 〔文首〕「(前欠カ) □教院ヲ興隆シ諸宗及神官神官諸宗諸宗ノマテ彼我ヲ忘却シ一致シテ同心ノ戮力國教ヲ恢張スルノ条勿論ノ」ニソロ：」
- 〔文尾〕「：其餘小同小異ノ事々適宜便宜ノ件々ハノ後ノ規則條々ニ分列ス」
- 二：「書状案」(諸末派代理人之儀) 一紙形態
 一八・〇×四五・〇 一紙(繼紙二紙)
 / 知も被下候通：」
- 〔文首〕「三府五港七十二縣代理人ノ儀、兼(而)御承
 〔文尾〕「八月朔 相國寺承珠印ノ列嶽大和尚」(別筆)
 〔備考〕別筆は荆叟カ。また、貼継があり、「追曰：」と所見が認められている
- 三：「御達ノ覚(目錄抄出)」[明治五年四月至六月] 豎帳
 二四・五×二六・八 一二丁
- 〔首題〕「御達ノ覚(目錄抄出)」
 〔文首〕「二 教則三條(四月)：」
 〔文尾〕「一 諸末寺從前別格ノ分可申出」
- 四：「覚書」(布教に付) 一紙形態
 二四・二×三三・九 一紙
- 〔文首〕「一 謹テ三條ノ旨ヲ守ルヘキ事 一 深ク宗意ヲ信スヘキ事ノ一 厚ク祖先ヲ敬スヘキ事ノ右ノ趣違犯ニ於テハ神佛ノ冥罰ヲ蒙ルヘキ也
 / 右合議決定ノ事ノ一 第一 從前ノ：」
- 〔文尾〕「一 第八 社中朝夕神佛ノ廣前ニ於テ別昏三條ヲ風讀シ異端ノ妖邪ノ煽惑セサル様、懇到誓願セシムヘシ」
- 五：「口上覚(宗名之儀)」 豎帳 二四・五×一六・九 一二丁
 〔文首〕「口上覺ノ宗名之儀者、天竺ニ而佛所説之經、或ハ菩薩所造之論ニ依而：」
 〔文尾〕「申八月傳写、増上内通玄院□□之文」
 〔備考〕江戸中期から明治初頭にかけて争われた、浄土宗と浄土真宗間の「真宗」の名前を巡る宗名論争に関するもので、浄土宗(増上寺)側の主張とみられる
- 六：「願書下書」(僧タル者ハ) 一紙形態
 二七・九×四〇・六一 一紙

〔文首〕「一 僧タル者ハ諸民教導ノ職任ニソロヘハ…」
〔文尾〕「…教法萬國ヘモ相及／ヒソロ様ニモ相成ルヘ
クト奉存ソロ此段御開届成シ下サレ／ソ中条備
上奉願ゾロ也」

た紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり
ZDA No. : 180-41

七・「設小教社議」一紙形態 二七・八×二八・九 一紙

〔文首〕「設小教社議／大教院建築ノ議、既ニ立テハ將

ニ營繕ノ事ヲ舉ン／トス…」

〔文尾〕「壬申七月 六級課議」

42 「絶海録考証」草稿残欠 写本 一冊

〔高峰東峻編〕

袋綴装(紙縫留) 二五・二×一七・五 三紙

〔文首〕「卷一ノ二丈」／△満翁 了道號満翁、初為天

台宗…」

〔文尾〕「…信州人也、嗣絶海在相國／典寶之職」

〔備考〕絶海中津(二三三六―一四〇五)の語録である

『絶海和尚語録』について、当院第十三世・高峰

東峻が註解した『絶海録考証』の草稿の残欠か

覚書の類いとみられる

冊首に「絶海和尚語録註」／180-42」と記

された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 180-42

41 「道歌集」残欠 写本 一冊

一紙形態(紙縫等脱落)

二二・八×一六・八 四紙

〔文首〕「後世願フ人ニ 死テ后ヲ佛ト人ヤ思フラン…」

〔文尾〕「ハツカシト問テ錯ル法ノ道、フミ迷フベキ人

ハカナシキ」

〔備考〕江戸後期から明治時代の成立とみられる

内容は、至道無難の『即心記』や、仙厓義梵の

『老人六歌選』⁽⁴⁰⁾ ほかで構成

冊首に「〔狂歌集〕残欠／180-41」と記され

43 「華嚴五教章注解」零葉 写本 一紙

〔高峰東峻〕編カ

一紙形態(紙縫等脱落) 二五・二×一六・八 一紙

〔文首〕「△光曜宮殿等 経曰:」

〔文尾〕「:此□浄土、而亦不離以」

〔備考〕内容は、『華嚴一乗教義分齊章』巻第一の「施設異相第八」の部分、「光曜宮殿等」から「此華

嚴(ハ)皆云在华嚴(嚴)界内摩竭国等」まで
冊首「華嚴一乗教義/分齊章註」零葉/180.

43//」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)

44 「詩語辞典」残欠 写本 一括

一紙形態(紙縫等脱落)・薄葉紙包

一九・四×一三・八 四十六紙

〔文首〕「赤泉(負丘山上有)ー/飲之不老」:」

〔文尾〕「:分(ソムク諸侯)ー」

〔備考〕冊首「左下虫損部分/注意(聯句用熟語辞典)」

／180.44//」と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)
あり

ZDA No.: 180.44

45 馬島朝鮮別幅目録 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二二・五×一八・〇 七丁、表紙二紙

〔外題〕「(馬島/朝鮮)別幅目録」(表紙左 直書、墨書、「五伍/七漆」(表紙右上 墨書)

〔首題〕「△朝鮮別幅」

〔備考〕「別幅」は贈答品一覽。これらの品は、朝鮮・馬島(対馬)ともに持参したが、その内容は、第一船・一特送使船・以耐庵送使船など、船によつて異なる。この目録は、朝鮮と対馬それぞれ

の持参品の名称や数量を船別に書き上げたもので、内容から年例送使時のものとみられる

また、児名送使(対馬島主である宗氏の嫡子の名前で派遣される送使)のところでは、「義真送使」とみられる。この名称について、対朝鮮通交関連

の覚書をまとめた「対韓使船要説」(建仁寺両足院所藏聖教目録I~III、「第百八十一函」41号、ZDA No.:181-041)の児名送使の項に、「:寛永十九年彦

満之圖書差越。彦満者義真之兒名故義真送使共号

ス。其後太守之子息有之時者:」とあるところから、本書の内容が、府中藩第二代藩主・宗義成

(一六〇四) (一六五七) の時代、年例送使としての

兄名送使が始められた時期のものと推測される

冊首に「(馬島朝鮮) / 別幅目録 / 18045」

と記された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 18045

47 回向記(過去帳) 一帖

折本装 緑青色蓮華唐草文表紙

一三・三×五・七 三十三折

〔外題〕「回向記」(表紙中央 直書、墨書)

〔備考〕紙背数葉に真言を認める

冊首に「…回向記(外) / 18047」と記された

紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

46 「山門疏」二通

一紙形態〔奉書紙七ツ折半〕

〔備考〕法量は広げた状態のもの

「山門疏 二通」 / 18046」と記された紙片(薄

葉紙・鉛筆書き)あり

ZDA No. : 18046

48 袖珍有司武鑑 刊本〔横帳〕一冊

袋綴装(三ツ目) 薄黄色表紙(原表紙)

七・一×一六・二 九十二丁、表紙二紙

〔匡郭〕四周单边・有界 五・六×一四・四

〔版心〕無魚尾 横単線で二格に分割、第二格「丁幾

〔本文〕漢字ひらがな交じり

〔外題〕「袖 / 珍」有司□(武)鑑 全(表紙左 刷り

題簽)

〔刊記〕「文久元辛酉年(一八六一) 毎月改 / 御書物師出

雲寺萬次郎板」

〔備考〕又丁。巻末に出版広告あり

冊首に「(袖珍) 有司武鑑(外) / 18048」と記

された紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

49 一刀流兵法目録 写本 一卷

卷子装 一八・六×三・八

〔首題〕「一刀流兵法目録／同外物之事」

〔奥書〕「天明七年／丁未(二七八七)四月吉日／若槻菊

太郎殿／参」

〔備考〕法量は巻いてある状態のもの

冊首に「一刀流兵法目録／18949」と記され

た紙片(薄葉紙・鉛筆書き)あり

〔番外〕

1 祖堂集 刊本〔謄写版〕 二十卷(存卷第十三之第

十六) 一冊

(中国・五代) 静・筠共編

袋綴装(四つ目綴、綴糸脱落) 焦茶色表紙(原表紙)

二五・〇×一七・七 六十四丁、表紙一紙、遊び紙一紙

〔本文〕漢字 每半葉十四行・一行十八字

〔備考〕端本。また、百二十八頁までで後欠

本書は、南唐保大十年(九五二)に成った禪宗

灯史の一つで、祖師たちの堂奥の意から、祖堂集と名付けられた

原本は、花園大学図書館に所蔵される朝鮮・海印寺版(高麗・高宗三十二年(一二四五)開板)。この本が花園大学図書館に入った経緯については、「戦後の學制改革で、臨濟學院専門學校は、新制度の花園大學となる。當時、鈴木大拙の直弟子を自認していた緒方宗博先生が、學校の新しい出發を記念して、祕蔵の『祖堂集』原本を、大學圖書館に寄贈された」(柳田聖山『祖堂集索引』下冊、京都大學人文科學研究所、一九八四年)という

また同館には、もう一点、別の海印寺版『祖堂集』が存在する。これは、花園大学國際禪學研究所長(当時)の柳田聖山師が、一九九一年六月に韓國の海印寺と僧伽大學を訪問された際に寄贈されたもので、原板による新摺本である

本書は、行数・字数とも原本通りに手書き謄写版で作成されたもので、昭和二十六年(一九五二)から数年間、柳田師によって、花園大学から出版された

2 建仁寺塔頭末寺略伝記 複製本 一冊

私製・複写版 袋綴装(綴り紐結び留め) クラフト厚紙
表紙

二六・七×一九・八 八十九紙、表紙二紙

〔外題〕「建仁塔頭末寺畧傳記 靈洞院藏」

〔書入〕部分的に注記(青インク書き)あり

〔備考〕当院第二十二世・伊藤東慎師が作成と推測

建仁寺靈洞院所蔵とみられる本の複製。感光紙
による複写で、少々退色がみられる

原本表紙、「建仁塔頭末寺畧傳記」(表紙左上)

直書、墨書、「住持方用」(表紙右上 直書、墨書)。

複写された表紙の中央に、「享保四年(一七二一)

編 〇、大龍菴□」の記述(青インク書き)あり

本編の三箇所「(参考・草稿本)」と注記され

る異本の複写が入り、また、末尾に異本の目録

(題名「東山建仁寺畧傳目録」、右下に「常光ノ文庫」

の赤インク書きあり)と、丁表に題名(「建仁及塔

頭末寺略傳)、裏に「此畧傳享保七年寅冬改正之」

の墨書が確認できる複写紙が入る

ZDA No. : 番外-2

3 元寇史料集・付解説 一箱

国民精神文化研究所

二六・四×七・五 本編二軸、解説一冊

〔刊記〕昭和十年(一九三二)

〔備考〕国民精神文化文獻 二

本編と解説とを併せて一箱に収納。法量は収納
しである箱のもの

一・「元寇史料集一」一軸

卷子装

〔首題〕「正傳寺文書・石清水八幡宮文書」

二・「元寇史料集二」一軸

卷子装

〔首題〕「壬生官務家日記」

三・「解説」一冊

大和綴装 二六頁、表紙二紙

〔首題〕「元寇史料集解説」

別置

四 桐箱 (一件五点)

〔備考〕腹紐付きで、指物師によって作成 (底板内側に署名あり) されたもの

【第二十八番】

(11) 仏果園悟禪師碧巖録 刊本 (妙心寺正眼庵・特大

版) 十卷 五冊

〔宋〕雪竇重顕頌古 園悟克勤評唱

袋綴装 (五つ目綴) 柿渋塗り表紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 一七・七×一・四

〔版心〕黒魚尾、中黒口 上下向魚尾下「柱題」「卷幾」

「〇」、下双魚尾の間「丁幾」

〔本文〕漢字 每半葉十一行・一行二十一字

〔柱題〕「碧巖」(一部「碧若」、「碧」)

〔刊記〕卷首扉・右「杭州北橋北街東嶋中張氏書隱印

行」、左「山城州西京妙心禪寺内正眼菴新刊」

〔印記〕各冊卷首、「兩足院」(朱陰長方飾枠)

〔書入〕朱点・朱引、墨書による訓点・送りがな・欄外

に詳細な注記の書き入れあり

〔備考〕覆元〔延祐四年跋〕刊本で、室町時代の刊行

特大版で、全体的に多めに余白がとられている

が、これは書き入れしやすいように作成されたもの

のと伝わっており、該書にも室町から江戸初期あ

たりとみられる書き入れが多数確認できる

現在所用目録、「第廿八番」に著録、欄上に

「別」の墨書あり

ZDA No. : 286

卷一之二・三〇・一×二〇・八 八十二丁、表紙二紙

〔外題〕「 卷一／聖諦第一義 趙州至道 馬祖不安

／徳山挾複問答 雪峰粟米粒 雲門好日／惠超

問佛 翠岩眉毛 趙州四門／睦州掠虚頭漢／

卷二／黄蘗唾酒糟漢 洞山麻三斤 巴陵銀碗

／雲門對一説 雲門倒一説 鏡清啐啄／香林

久坐成勞 國師無縫塔 俱胝 指／竜牙西來意」

〔首題〕「佛果園悟禪師碧巖録卷第一／師住澧州夾山靈

泉禪院評唱／雪竇頌和尚頌古語要」

〔尾題〕「佛果園悟禪師碧巖録卷第二」

卷三之四・三〇・二〇・七 六十丁、表紙二紙

〔外題〕「第三／智門蓮花 雪峰龜鼻蛇 保福妙峰

頂／馮山老特牛 蓮花峰庵主拈杖 百丈奇特／

雲門體露金風 南泉不說心佛 大隋壞／趙州蘿

蔔／ 卷四／麻谷三匝 定上座大悟 資福掩

却門／仰山五老峰 文殊無著 長沙遊山／盤山

無法 風穴鉄牛 雲門花葉欄／南泉指庭前花」

〔首題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第三」

〔尾題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第四」

卷五之六・三〇・二〇・八 五十二丁、表紙二紙

〔外題〕「卷五／趙州大死底人 龐居士好雪 洞山

無寒暑／禾山解打鼓 趙州布衫 鏡清雨滴聲／

雲門六不收 朗上座捧炉神 三聖透網金鱗／雲

門塵々三昧／ 卷六／雪峰岩頭末後句 趙州

石橋 百丈野鴨子／雲門展兩手 道吾不道 良

禪客一鏃破三關／趙州田厓奴 趙州五年分疎不

下 趙州何不尽這語／雲門拄杖化龍」

〔首題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第五」

〔尾題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第六」

卷七之八・三〇・二〇・八 四十九丁、表紙二紙

〔外題〕「卷七／風穴國家興亡 雲門一宝秘在 南

泉斬猫兒／趙州戴鞋 外道問佛 岩頭引頸因／

傅大士講經 惠寂惠然 麻谷女人拜／馮山却請

和上道／ 卷八／五峰和尚併却 雲岩和上有

也未 馬祖藏頭白／金牛喫飯來 烏白消得恁麼

丹霞喫飯也未／雲門餠餅 十六開士入浴 投

子一切聲佛聲／趙州孩子六識」

〔首題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第七」

〔尾題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第八」

卷九之十・三〇・二〇・八 六十七丁、表紙二紙

〔外題〕「卷九／藥山塵中王 大竜堅固法身 雲門

古佛露柱□／維摩入不二法門 桐峰菴主虎声

雲門厨庫山門／雲門藥病相治 玄沙三種病人

雲岩大悲手眼／智門般若体用／ 卷十／鹽官

犀牛扇子 世尊陞座 大光野狐精／楞嚴非物非

汝 長慶羅漢三毒 趙州三轉語／金剛經輕賤消

滅 西院兩錯 国師十身調御／巴陵吹毛劍」

〔首題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第九」

〔尾題〕「佛果圓悟禪師碧巖録卷第十終」

五 薄葉紙包 (一件四点)

〔備考〕 蓋箱天板と身箱に、「第四十五箱の内 (別出) / 救規桃源鈔 四冊」の墨書のある箱があるが、大きさが合わないため、現在では箱を残しながら、該書を薄葉紙で包んで収納

〔第四十五番〕

〔22〕百丈清規抄 写本 四冊

雲章一慶講 桃源瑞仙録 「高峰東峻」跋・補綴

袋綴装 (四つ目綴) 亜麻色表紙 (高峰東峻補)

〔本文〕 漢字カタカナ交じり 每半葉十四行 (第三冊のみ十三行)

〔奥書〕 「寛正三年 (一四六二) 歲在壬午八月十日、瑞林之東軒抄畢、蓋／雲翁始講於惠日之宝渚而、終卷於鸞峰、從己卯 (長祿三年・一四五九) 春迄今前後／四更星霜焉……」

第四冊の末尾、高峰による識語「昔寛正中、東福雲章講救修清規、相國桃源以國字記／其所聞世稱之雲桃鈔、一日書買携此書來、題曰隨／方毘尼、讀之所謂雲桃鈔者也、每卷有光隣印記、隣／者東福寶勝院芳卿之名而去雲章桃源不遠矣、

竊／知古物、復讀到第二卷末記曰、明應五丙辰

(二四九六) 書之、因是／推考此鈔成僅廿五年也、至今安永丙申 (一七七六) 既二百八十／十年、於是奇而居之、補綴袂襟、以為珍襲／東峻誌」あり

〔印記〕 各冊卷首「光／鄰」(黒陽円印)

高峰識語署名下、「東峻之印」(朱陰方印)、

「高／峰」(朱陽方印)

〔書人〕 朱点・朱引、欄上・本文中朱墨の書き入れあり

第一冊…二八・八×二〇・八 七十丁、表紙二紙、遊び紙二紙

〔外題〕 「救規桃源鈔」(「爰」朱陽楕円印) 一 (表紙左上書き題簽、墨書)

第二冊…二九・一×二二・〇 六十六丁、表紙二紙、遊び紙二紙

〔外題〕 「救規桃源鈔」(「爰」朱陽楕円印) 二 (表紙左上書き題簽、墨書)

第三冊…二八・七×二二・〇 九十丁、表紙二紙、遊び紙二紙

〔外題〕 「救規豺源鈔」(「爰」朱陽楕円印) 三 (表紙左上書き題簽、墨書)

第四冊・二九・〇×二〇・八 九十七丁、表紙二紙、遊び紙

二紙

〔外題〕「救規桃源鈔」〔変〕朱陽椿円印 四〔表紙左上

書き題簽、墨書

六 折込帙（一件二点）

〔備考〕四方帙、題簽白紙

【第百五十六番】

1 毛詩抄・毛詩環翠口義 写本 二十卷 十三冊

〔清原宣賢〕講 林宗二・林宗和筆

袋綴装（包背） 焦茶色表紙（補修・原表紙利用）

〔本文〕漢字カタカナ交じり

〔印記〕各冊卷首「兩足院」（朱陰長方飾梓印）

〔備考〕本書は、室町時代に清原宣賢によって行われた

『毛詩』の講義を林宗二と林宗和が書写したものと。

古くから最善本として知られており、『兩足院叢

書』林宗二・林宗和自筆毛詩抄・毛詩環翠口義』

（臨川書店、二〇〇五年）として影印刊行されている

表紙・本紙ともに補修があるが、前掲書の解説

に「影印するには傷みすぎている…最小限の修理

を行い」とあるので、大体はこの時のものと推定

できる。また、第八冊の丁番号「3」「4」の間

に「14」が、また第十三冊で「13」と「14」の間

に無番号の丁が見られるが、刊行されている影印

も同じ順序で掲載されているので、まずは指摘の

みにとどめる

ZDA No. : 156-1

卷一・二四・七×一八・三 五十八丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義（第二）□（十）三冊之□（内）」

（表紙左上 直書、墨書）

〔首題〕「毛詩序抄」

〔尾題〕「毛詩抄第一」

〔奥書〕「五十□（八カ）丁」

卷二・二三・九×一八・五 四十二丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義（第二）十三冊之内」（表紙左上

直書、墨書）

〔首題〕「毛詩抄卷第二」

〔尾題〕「二終」

卷三・二四・〇×一八・三 四十丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義〈第三〉十三冊之内」(表紙左上)

直書、墨書

〔首題〕「毛詩卷第三」

〔尾題〕「毛詩卷第三」

卷四・二四・三×一九・〇 三十九丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義〈第四〉十三冊之内」(表紙左上)

直書、墨書

〔首題〕「毛詩卷第四」

〔尾題〕「毛詩卷第四」

〔奥書〕「天文八年四月十日」

卷五之六・二四・九×一八・五 五十七丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠□(口)義〈五之六〉十三冊之内」

(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄第五」

〔尾題〕「毛詩卷第六」

卷七之八・二四・二×一八・九 五十四丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義〈七之八〉十三冊之内」(表紙左

上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄卷之七」

〔尾題〕「毛詩抄卷之八」

卷九之十・二四・二×一八・八 四十八丁、表紙二紙

〔外題〕「□(毛)詩環翠口義〈九之十〉十三□(冊)之

内」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄卷第九」

〔尾題〕「毛詩抄卷第十」

〔奥書〕卷十尾「天文八□(己)亥」(閏)七夕書之了」

卷十一之十二・二四・三×一八・七 五十二丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義〈十一之十二〉□□(十三)冊之

内」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄卷之十二」

〔尾題〕「毛詩抄卷之十二」

〔奥書〕卷十一尾「天文八年(己)亥 毛閏六月四日於

法隆寺脇坊抄之 安盛」卷十二尾「天文第八

(己)亥 閏六月十七日於法隆寺抄之」太子傳

講在之」

卷十三之十四・二四・二×一八・五 五十丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義(十三之十四)十三冊之内」(表

紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩之抄卷十三」

〔尾題〕「毛詩抄卷之十四」

〔奥書〕卷十三尾「天文第八(己)亥 閏六月廿二日於

法隆寺太子傳講演次抄之/安盛、卷十四尾「閏

六廿六」

卷十五之十六・二四・二×一八・四 六十一丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義(十五之□)(十)六」十三冊之

内「(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄卷之十五(六月九日)」

〔尾題〕「毛詩卷第十六」

〔奥書〕卷十五尾「天文第八己亥七月三日於法隆寺脇坊

抄之、侍於定譽律師太/子傳(講) 席間暇之時

節抄之了」、卷十六尾「天文(己)亥 八年九月

十三日於南都旅停書之/今日轉害會執行、貴賤

群集近代之壯觀也」

卷十七・二四・二×一八・四 四十二丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義(□)(第)十七」十三」

(冊之内)「(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄第十七」

〔尾題〕「毛詩卷之十七」

卷十八・二四・〇×一八・三 五十二丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義(第十八)十三」(冊之

内)「(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩卷之十八(天文甲午(三年・一五三四)卯

月十四日)」

〔尾題〕「毛詩抄卷之十八」

〔奥書〕「天文八年(己)亥 九月廿五日一部功畢、西

大寺愛染万座執行」

卷十九之二十・二四・〇×一八・八 六十八丁、表紙二紙

〔外題〕「毛詩環翠口義(□)(十九)之廿」十三冊之内」

(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「毛詩抄卷第十九」

〔尾題〕「毛詩抄卷之二十」

〔奥書〕卷十九尾「天文八年(己)亥 七月十一日於法

隆寺抄之了、今日太子傳結願了」、卷二十尾「天

文八年(己亥)七月七日於法隆寺脇坊抄之、
正義四十卷畢了/安盛

の間に無番号の一丁が見られるが、これらも刊行
されている影印と同じ順序なので、まずは指摘の
みにとどめる

七 折込帙(一件六丁)

〔備考〕四方帙、題簽白紙

小口書「柳抄風(頌)」(毛詩の序にある詩の六
義、風・賦・比・興・雅・頌)

本紙、虫損補修あり
ZDA No. : 156-5

【第百五十六番】

2 柳文抄 写本 四十三卷 六冊

袋綴装(四つ目綴) 柘型 焦茶色表紙

序・卷一之六・二三・九×二〇・三 八十五丁、表紙二紙

〔外題〕「柳文抄(序一之六)」(表紙左上 書き題簽、墨書)

〔本文〕漢字カタカナ交じり 每半葉十四行・一行不定

〔首題〕「柳文序抄」

〔印記〕各冊卷首「兩足院」(朱陰長方飾枠印)

〔備考〕本書は、中国の文人・柳宗元の詩文についての

卷七之十六・二三・九×二〇・四 五十四丁、表紙二紙

注釈書で、林宗二の書写。〔両足院叢書〕柳文

〔外題〕「柳文抄(七之十六)」(表紙左上 書き題簽、墨書)

抄(臨川書店、二〇一〇年)として影印刊行され

〔首題〕「柳文抄卷之七」

ている

こちらも、第一冊の卷之三と卷之四の間の丁
番号「62」が欠けており、第二冊で「52」と

卷十七之二十二・二三・八×二〇・四 五十九丁、表紙二
紙、遊び紙二紙

「53」が互い違い、第三冊の「50」と「51」の間

〔外題〕「柳文抄(十七之廿三)」(表紙左上 書き題簽、墨書)

に「53」が入り、第四冊で「35」と「36」の間に

〔首題〕「柳文刻楮抄第十七」

「23」と「24」が入り、第六冊の「4」と「5」

卷二十三之二十九・二三・八×二〇・五 六十丁、表紙二紙

〔外題〕「柳文抄」(廿三之廿□(九)) (表紙左上 書き題

簽、墨書)

〔首題〕「柳文抄廿三」

卷三十之三十九・二三・七×二〇・五 四十九丁、表紙二紙

〔外題〕「柳文抄」(三十之卅九) (表紙左上 書き題簽、墨書)

〔首題〕「柳文抄卷卅一」(此以下至卅四自書)「

卷四十之四十三・二三・九×二〇・四 四十一丁、表紙二紙

〔外題〕「柳文抄」(四十之四十三/終) (表紙左上 書き

題簽、墨書)

〔首題〕「柳文抄第四十」

〔奥書〕「永祿第八乙丑(一五六五) 十月朔日書写之了、

□(禅力) 昌院繼天首座本借用/宗二六十八歳不

休庵/書之」

八 木箱 (二件二点)

〔備考〕「一 時代記/百五十七番/大日本帝王略記/重

撰倭漢皇統編年合運圖/祖師部/洛下墊釋圓智

撰」の書付あり

【第百五十七番】

[62] 倭漢皇統編年合運図 刊本 (古活字版) 二卷 二

冊

円智撰述

袋綴装 (五つ目綴) 黄土色表紙

古活字版 有界 (上下二段)

〔本文〕 漢字

〔柱題〕 「年代記」

〔印記〕 各冊卷首「兩足院」(朱陰長方飾枠)

〔書入〕 部分的に朱点・朱引あり

〔備考〕 上代から慶長九年(二六〇四)までの和漢対照

の年代記で、慶長五年(二六〇〇)に初版が刊行

され、八年、十年、十六年に版が重ねられた

本書は、その慶長八年版で、川瀬一馬氏の『古

活字版の研究』(日本古書籍商協会、一九六七年)

に掲載。上冊は垂仁天皇五十三年まで、下冊は垂

仁天皇五十四年以降を収録し、「慶長九」「甲辰」

までが刻される

また、慶長十年乙巳以降、寛永十七年庚辰

(一六四〇)までの年号と干支を追記し、元和元年(一六一五)では「五七大坂落城」、寛永三年(一六二二)には「九六主上幸長安二条」と追記(墨書)がある

昭和法宝総目録本では「第百三番」に著録、「倭漢年代記(慶長活)一二」と記載される

現在所用目録では、「時代紀一二」と記載され、欄上に「別」の墨書、本行にピンク色で「小箱二入ル」と誌される

第一冊：三二・九×二二・五 七十丁、表紙二紙

〔首題〕「重撰倭漢皇統編年合運圖／洛下 梵釋圓智 撰」

第二冊：三三・〇×二二・三 七十五丁、表紙二紙

九 布帙(二件一点)

〔備考〕帙の材質で表紙・背・裏表紙を覆い、反対側は板帙のように紐で結ぶ形状

「僧録大和尚語等 天文年間寫／悦巖詩集 天正六年寫」の貼紙あり

【第百六十番】

[19] 悦巖之詩集 写本 一冊

悦巖東念撰

袋綴装(四つ目綴) 薄茶色表紙

二五・五×一六・三 十九丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉九行・一行十八字

〔外題〕「悦巖之詩集」(表紙左上 直書、墨書)

〔文首〕「東風二月潤邊梅猶爲餘寒全未開……」

〔文尾〕「：朝天多 八月梅花一炷香 詣北野神席

〔八月廿五〕

〔奥書〕「天正第六(戊寅)(一五七八)仲秋初七令書写

了(花押)」

〔書入〕朱点、一部に朱引あり

〔備考〕当院第五世・悦巖東念(一四六〇～一五二九)の

詩集で、百四十五首を収録

総裏打補修を施す

現在所用目録には、欄上に「別帙入」と注記

〔墨書〕あり

冊首に「悦巖之詩集」と記された紙片(半紙、

鉛筆書き)と、「未了」と記載(鉛筆書き)された

短冊状の和紙あり

ZDA No. : 160-23

【番外】

4 「水上山万寿禪寺一件之事」 一冊

袋綴装(四つ目綴) 茶色表紙

二四・五×一六・八 九丁、表紙二紙

〔本文〕 每半葉九行程度

〔文首〕 「僧録大和尚分肥前家老衆〈江〉被遣候□□／札之

写

〔文尾〕 「天文龍集〈丁酉〉(六年・一五三七) 冬十月十七日、

前南禪茂彦／叟善叢暮齡七十八於無價□□拜讀」

〔書入〕 部分的に朱点・朱引あり

〔備考〕 書状、僧伝、讚等の写し

内容は、(年未詳) 五月二十三日 金地院崇寛書

状 多久長門・鍋島若狭宛、(年未詳) 十月廿五日

付 東福寺書状(首欠力)、東福寺條々之事、元亨

積書「慧日山辯圓」抄録(肥州有榮尊者。與爾

跨海游宋地。尊三歳／而帰。領水上山寺、及爾還

改禪林、請爾／開山。自居板頭(云々)、惠峰大

同菴再興化縁疏并序、神子和尚贊、在山禪師(在

山素瑤)真蹟、□(肖)伯禪師(肖伯令惠)寿像贊
／茂彦善叢贊で構成されている

水上山万寿寺は、佐賀県にある臨済宗寺院。仁
治元年(一二四〇)に神子榮尊(聖一派・一一九五
～一二七二)によって創建されたが、現在は南禪
寺派に属している

本書によって、万寿寺の帰属をめぐる一件が
あったことがうかがえるが、内容から、近世初期
あたりの東福寺側の記録とみられる

最後に記録される「肖伯禪師寿像贊」の贊者で
ある茂彦善叢は、(番外) 17 「諸書拔萃録」で
も関与がみとめられ、また、ほぼ同じ装幀と扱
がみられることから、これら二本の伝来には、何
らかの関わりがあると思われる

総裏打補修(表紙も同時力)を施す
冊首に「僧録大和尚語(等)」と記載(鉛筆書
き)された短冊状の和紙あり

ZDA No. : 番外 4

一〇 薄葉紙包〔一件一点〕

【第百六十三番】

[28] 古澗稽禪師語録・附祭梅仙和尚文及悼梅仙和尚偈并

和韻 写本 一冊

古磻慈稽撰〔梅仙東逋〕

袋綴装（紙縫留） 新補表紙（伊藤東慎補）

二六・五×二〇・三 九丁、原表紙四紙、新表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十三行・一行二十字から二十五字

程度、不定

〔外題〕〔題簽／私設〕古澗（稽禪師）〔和尚〕語録 東

慎識〔表紙左上 直書、墨書〕、「一六三番／合本

（大統古磻和尚入寺法語 一六三番／陸座及問禪 六〇

番）〔表紙中央 直書、墨書〕

〔文首〕「慈稽拜／建仁入寺拙語謹録呈／諸大老師法座

前 慈悲改正／山門…」

〔文尾〕「…□來月落涅槃光 宗仲」

〔印記〕「壹／宗」（黒陽重郭方印）

〔書入〕朱点・朱引あり

〔備考〕本書は、表紙等の情報によると、当院第二十二

世・伊藤東慎師によって、「第百六十三番」の

『大統古磻和尚入寺法語（并）問禪』と、「第六十番」の『陸座（并）問禪』が合冊されたもの

内容は、古澗慈稽（？）一六三三・建仁寺第二十九十四世の建仁寺における入寺式での法語、慶長十三年（一六〇八）九月におこなわれた常光院殿大歎忌（四十九日）における釣天永洪（一五九二）一六五三の問禪法語、当院第七世・梅仙東逋（一五二九〜一六〇八）への祭文、悼偈・和韻で構成。本書は、江戸時代初期の成立で、印記から建仁寺普光庵の一宗元乗（？）一六三七）の手沢本と推定される

現在所用目録には、書名の上に「古澗稽禪師語録（ト改題）六」という付箋紙あり。この「六」以降、第六十番に収納される「陸座及問禪」との合冊について書かれていたとのことだが現在は欠落している

ZDA No. : 163-28

一一 木箱(二件二点)

〔備考〕「第百六十八番」、「澹居臺」同箱

蓋箱天板に「五山版／無門和尚因禪寺語録／澹居臺」の墨書、身箱に「二六八／澹居臺 一五山版／無門和尚語録 一 全」の貼紙あり

【第百六十五番】

〔8〕 無門和尚語録 刊本〔覆元刊本〕 一冊

〔宋〕無門慧開撰 普敬等録

袋綴装(四つ目綴) 柿洪塗り表紙

一一・三×一四・九 五十九丁、表紙二紙、遊び紙二紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 一七・二×一一・一

〔版心〕単黒魚尾 中程あたり「丁幾」

〔本文〕漢字 每半葉十行・一行二十字

〔首題〕「無門開和尚住湖州報因禪寺語録(月林和尚開

山／師爲第二代)／侍者 普敬 録」

〔尾題〕「無門和尚語録終」

〔奥書〕「參學比丘慧廣化到寶鈔伍兩／參學弟子程普覺

丁 堅 顧 覺通／女弟子朱氏妙慧共捨寶鈔伍

兩／小師 嗣源 嗣本 募縁重新刊／行庶廣流

通至元己卯(十六年・一二七九) 中秋日謹識」

〔印記〕卷首・巻尾、本編第一丁才、「兩足院」朱陰長

方飾枠、巻首に鼎印(印文未詳、朱陽印)、本編第

一丁才、「禪門」(朱陰長方印)

〔書入〕朱点・朱引あり

〔備考〕無門慧開(一一八三～一二六〇)は中国・南宋時

代の人。無門が著わした公案集、「無門関」は、

日本の禅林において『碧巖録』と同様に重要視

された

本書はその語録。中国・元時代、至元己卯

(十六年・一二七九)年に刊行された本を日本で覆

刻した覆元刊本で、鎌倉末の刊行とみられる

程公許の序から「建康府保寧禪寺語録」までが

刊本で、「開山護國仁王禪寺語録」以降は補写

小口書「無門録 全」

巻末に「野狐□(口偏に「延」字)唾」等が認め

られた短冊状の紙が貼付されている

保管状況から、現在所用目録において、「第

百六十五番」に掲載されているものと推定する

が、目録の書名欄上にピンク色で「不足」と書き

入れられている

ZDA No. : 165-10

一一 薄葉紙包 (木箱) (一件一点)

〔備考〕箱あるも破損。そのため薄葉紙を紙紐状にして箱を一括りにし、該書と一緒に薄葉紙で包まれている

尊天堂番所 龍宗識の貼紙(墨書)あり
小口書、「西山入寺語」「大圭」(異筆)の墨書
現在所用目録の「第百六十八番」上の貼紙に著録

【第百六十八番】

24 西山西禪寺入寺法語・「大圭和尚語録」 写本 一冊

〔大圭宗价〕撰

袋綴装(四つ目綴、綴紐脱落ぎみ) 焦茶色表紙

二五・七×一八・六 二十六丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十一行から十四行程度

〔外題〕「西山西禪寺入寺法語」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「西山西禪寺入寺法語」

〔奥書〕「以上廿六丁」

〔備考〕成立は室町ごろと推測される

内容は、西山西禪寺入寺法語、萬年山真如禪

寺入寺法語、東山建仁禪寺語録(享徳甲戌三年

〔一四五四〕八月十七日)で構成

表紙見返しに当院第二十世・後藤東交師に

よる、「一山―雪村―太清―叔英―大圭―建仁

百八十六世・大圭和尚、名宗价、嗣/叔英宗播、

播嗣太清渭 松蔭軒/昭和五年二月三日節分於/

二三 薄葉紙包 (木箱) (三件三点)

〔備考〕蓋箱は破損して天板の一部のみで、身箱はあるものの蓋箱と一具ではなく若干小さい。現状は、身箱に図書を入れて、上に天板を置き、その上から薄葉紙で包まれている
蓋箱天板に「大燈國」「一漚」「」
と、「拈香」「」の付箋紙あり

ZDA No. : 168-54

【第百六十八番】

(61) 大燈國師行狀…付通翁鏡円記録拔萃 写本 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二四・七×一九・一 十四丁、表紙一紙

〔本文〕漢字 每半葉十行・「大燈國師行狀」…一行二十

字、「普照大光國師百年忌陞座…」以降…一行

二十一字

〔外題〕「大燈國師行狀」(表紙左上 直書、墨書)

〔文首〕「大燈國師行狀」大燈國師、唱臨^{ウツ}齊宗旨、於横

嶽・萬寿・建長也。幾乎四…」

〔文尾〕「…慈誨／於是名延曆寺講師曰宗山」

〔書入〕朱点、一部に朱引と注記あり

〔備考〕成立は、室町時代末期から近世初期あたりと推

測される

内容は、大燈國師(宗峰妙超)行狀／春作禪興

撰、普照大光國師(通翁鏡円)百年忌陞座就于正

眼禪院／大愚性智撰、大光國師自贊、大光國師与

東寺虎聖宗論、同影之贊、南禪正眼院大光國師与

東寺虎聖問答(後欠カ)で構成。「大燈國師行狀」

は『統群書類従』卷第二百三十(第九輯下)に収

録

現在所用目録の書名の右に鉛筆書きで、

「百六十九ノ南禪寺記二入ル」と書き込みがあり、

「南禪寺記」の書名の下に同じく鉛筆書きで、

「大燈國師行狀／百六十八カ」とあるが、現状

とは一致しない

冊首に、「七 大燈國師行狀 両足院藏／卷冊」

と墨書された短冊と、片面に「史七／大燈國師行

狀」(墨書)とあり、もう片面に「百六十八(墨

書)／京都東山建仁寺塔頭／両足院(印)」とあ

る荷札、また、「未／2010.10」と鉛筆書きされた

和紙の短冊が入る

ZDA No. : 1686

(62)

拈香下火等…「無等和尚法語集」写本 一冊

〔無等以倫〕撰

袋綴装(紙縫留) 後補表紙(カ)

二二・二×一三・七 四十七丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉八行・一行二十字

〔外題〕「拈香／下火」等／二本□内」(表紙左上 直書、

墨書)

〔文首〕「大日本国山城州京師居住奉佛弟子…」

〔文尾〕「…一念若回光、五障忽解脱」

〔書入〕一部朱点・朱引あり

〔備考〕作者の当院二世・無等以倫は、伊藤東慎師の

『黄龍遺韻』（兩足院、一九五七年）による

成立は、室町時代と推測され、自筆の可能性もある

伝によると、無等は撰津の広嚴寺の住持をしたのち、知足院の守塔となったとのことだが、本書も、応安元年（一三六八）九月二十七日に広嚴寺で行われたという「佛日饒慧禪師明極和尚三十二年忌拈香」法語が掲載され、それ以降に行われた知足院等での法語が確認できるところから、無等の伝記と一致している

また、至徳二年（一三八五）に行われたという「知足院彌勒佛點眼」では、「先師真源大照禪師（龍山徳見）塔處／東山知足禪院、相共守塔比丘、立岩本公座元撰擇／良工刻彫嚴飾弥勒尊像、以安置于本院」とみえる。この「立岩本公」は、無等と同じ龍山徳見の法嗣の立岩寿本と推定され、初期知足院の様子を物語っており、重要である

表紙見返しには、「拈香下火集」と墨書された

付箋紙と、「五二、拈香下火集 卷冊 兩足院藏」と墨書された和紙の短冊が貼付されている

ZDA No. : 16862

(71) 一 瀧余滴 写本 一冊

中巖円月撰

袋綴装（四つ目綴）茶色刷毛目横縞表紙

二五・二×一九・五 十五丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十三行・一行十九字

〔外題〕「一瀧餘滴」（表紙左上 書き題簽）

〔首題〕「一瀧餘滴」

〔印記〕卷首右下 □／□（朱陽方印・印記未詳）

〔書入〕一部に朱点・朱引あり

〔備考〕玉村竹二編『五山文学新集』第四卷（東京大学

出版会、一九七〇年）所収

また、同書において、上村観光編『五山文学全集』第二巻にも、兩足院蔵本の「東海一瀧餘滴」が掲載されるが、本書とは内容が異なるものであり、現在この本が蔵書の中に存在していないとす

る玉村氏の指摘があるが、今回の調査でも同様の結果を得たので付記しておく

冊首に、「一、一漚餘滴 沓冊 両足院藏」と墨書された短冊と、片面に「一六八」(墨書)とあり、もう片面に「京都東山建仁寺塔頭／両足院(印)」とある荷札が入る

ZDA No. : 16842

一四 黒塗箱〔七件七点〕

〔備考〕 収納されている七件のうち、六件は料紙二折(一紙形態)で、紙帯などで一括りとなっている

また、四件で紙背文書が確認できるが、もと袋綴装と思われるものもあり、故意に綴じ糸が外されていている可能性がある。

【第百六十八番】

(63) 攢東・「入寺疏語集」 写本 一括

一紙形態(紙帯括り) 共紙表紙
二六・八×二二・五 三十七紙

〔本文〕 漢字

〔外題〕 「攢東」(表紙左上 直書、墨書)

〔文首〕 「松壑西堂□(住) 建仁山門」 □ / 去年印今年印…

〔文尾〕 「…今朝四月初一 世尊不説ニ鵝鳩樹上鳴□□□」 特謂□□無覓處、誰知轉□□(□/來)

〔印記〕 卷首右下に二箇所あるも、墨抹のため不詳

〔書入〕 部分的に朱点・朱引あり

〔備考〕 現在所用目録、「第百六十八番」に著録される

「攢東(写) 一」カ。ただし、外題の「東」字は、「東」とは別字で、「東」の略字と思われる

内容は、前半は入寺疏(山門・諸山・江湖・同門など)、後半は「元旦」や「祖忌」などの項目における語録からの抄録となっており、松壑西堂住建仁入寺疏(山門・諸山・道旧・江湖・同門)、常庵西堂住建仁江湖、圭甫西堂住東福江湖、前真如芳卿西堂住東福諸山、少蕙和尚住相国諸山、曇英西堂住宝林山門、東嶺西堂住真如同門、東輝西堂住建仁入寺疏(山門・諸山・道旧・江湖・同門)、河清西堂住建仁入寺疏(山門・道旧・江湖・同門)、蘭室和尚住建長江湖疏で構成され、表紙見返しに、「松□建仁入門仏事」と「東輝建仁入門仏事」

法語が誌される

また、紙背文書が確認でき、その中には「永□
(蓮カ) (花押) / 識廬 (別の文書では「十如院」)
や、知足院・靈泉院の名前のある「贈進祖忌奉加
錢：周□ (花押)」とみられるものがあるが、こ
の「永□」が十如院の雪嶺永蓮であるならば、室
町後期あたりのものでと推定可能と思われる

虫損あり

ZDA No. : 168-63

(67) 先師文集・「水拙文集残欠」 写本 一括

〔祖溪徳澄〕撰

一 紙形態 (紙帯括り) 素紙表紙 (後補表紙カ)

一三・七×二〇・四 十二丁、表紙一紙

〔本文〕 漢字 每半葉十七行・一行二十三字から二十九

字程度、不定

〔外題〕 「先師 / 文集」 (表紙左上 直書、墨書)、「春沢乎 /

□□和尚ヲ云」 (表紙右 小字墨書)

〔文首〕 「」望。灯下執筆。病眼有花。字々敬斜。

勿怪也。万祝若 / 「」齋。不宜 / 与慈視 / 爾

来音耗不嗣……

〔文尾〕 「：有客掀□而坐。□ (恋) 山而来耶。背山而
「」 倘非築山□水者。不可」

〔書入〕 朱点・朱引あり

〔備考〕 本来、『水拙文集』は、手簡、説、記、雑文か
ら構成されているが、本書は手簡の後半から記
の中ほどまでの残欠本

手簡のみ「水拙手簡」として『統群書類従』巻第

二百五十八 (第十三輯下) に所収

現在所用目録、「第百六十八番」に「先師文集

(写) 一」と著録

虫損あり

ZDA No. : 168-19

【第百七十番】

[2] 嬾室語録・「仲方和尚語録」 写本 一括

〔仲芳円伊〕撰

一 紙形態・紙帯括り 共紙表紙

二九・五×二一・七 六十五紙

〔本文〕 漢字 每半葉十三行・一行二十二字

〔首題〕「懶室語録」

〔文首〕「○佛祖諸讚／出山像」

〔文尾〕「…即答他道、今日四月八日」

〔書入〕部分的に朱点・朱引あり

〔備考〕もと袋綴装と思われるが、綴じ糸が外され、紙

帯で一括りにされている

建仁寺長慶院開基・仲芳円伊（一三五四～一四一

三）の語録

内容は、「懶室漫稿」（『五山文学全集』第三卷、

所収）の「佛祖讚」以降にみられるが、若干の異

同がある

後半、虫損

ZDA No. : 170-2

【番外】

5 「月舟和尚作品集」写本 一括

〔月舟寿桂〕撰

一紙形態・紙帯括り 二五・五×二一・五 四十八紙

〔本文〕漢字 每半葉十行から十三行・一行十八字から

二十一文字程度、不定

〔文首〕「答祖溪書／僕去歲夏、以事適越…」

〔文尾〕「…不知何人為公作詩、莫愧梅花下之僧」

〔備考〕もと袋綴装とみられるが、綴じ糸が外され、紙

帯で一括りにされている

建仁寺一華院開基・月舟寿桂（一四七〇～

一五三三）の作品集

月舟の作品は、四六文集である『幻雲稿』や

『幻雲文集』など、後人によって分類・整理され

ているが、本書はそれらが未整理のまま混在して

いる。また文首の「答祖溪書」は続群書類従本で

は「復祖溪老人書」と題が改められているなど、

多くの異同が確認できることから、この写本は後

人による編纂前のもとの推測される

さらに、この史料には紙背文書が存在し、「永

源庵／古岳座元禪師（建仁寺第二八五世・古岳永

淳）」等と見えるところから、室町後期から近世

初期ぐらいまでのものと推測される。宛所には

「蔵春軒」と「永源庵」に宛てたものが多い。蔵

春軒は清住院の寮舎の名称であるとともに、「東

山建仁禪寺并諸塔頭略記」（第三十六番）三十二

号）によると、永源庵の寮舎（細川元有〔幽齋の祖

父」の建立)としても確認できるため、特にここに
 に関しては、注意深く考察を進めていく必要がある
 と思われる。

ZDA No. : 番外-5

6 倒々痴…「秉弘法語集」 写本 一括

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二六・五×二一・六 十九丁、表紙二紙

〔本文〕 漢文

〔外題〕「倒々痴」(表紙左上 直書、墨書)、「遵首座(西
 來派)」「代鉄叟和尚 防州惠竺首座(同派 二會)

／藝州玄棟首座(中峯派／二會) 防州玄策首座

〔西來派／二會〕／宗悦首座(妙心派／二會) 承

祥第一座(嵯峨派 二會)／元真首座(西來院

二會) 紹益首座(關山派 □(二)會)／昌

演首座(中峯派 二會) (表紙中央 墨書)、「秉

弘」(表紙右 墨書)

〔文首〕「索話／煎西來百尺井…」

〔文尾〕「…云、巢父不牽牛、許由不洗耳」

〔印記〕表紙中央あたりに朱刷印(印文未詳)

〔書入〕朱点・朱引、本文中に朱で書き入れあり
 〔備考〕秉弘法語を集めた作品で、江戸時代前期ごろの
 成立

内容は、紹益首座(三江紹益・高台寺開山)、防
 州惠竺首座(乾龍惠竺・建仁寺如是院)、芸州玄棟
 首座(充甫玄棟・洞春寺第二世)、防州玄策首座
 (建仲玄策・妙玖寺第二世)など、安土桃山時代か
 ら江戸時代前期に活躍した僧たちの法語が収録さ
 れている

ZDA No. : 番外-6

7 百官鈔…官職淵源 写本 一括

〔林宗和〕筆(カ)

一紙形態(紙紐括り) 共紙表紙

二六・八×二二・七 三十九紙(含表紙二紙)

〔本文〕漢字カタカナ交じり 每半葉十二行から十五行

〔外題〕「官職淵源」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「百□(官)鈔上」

〔尾題〕「百官鈔畢」

〔奥書〕「天文八年己亥(一五三九)壬六月廿日終功畢

於南都法隆寺瓦坊□／于時太子伝講談□五度之時也 宗和

〔備考〕本書は、官職等についての注釈書で、奥書によると林宗和の書写本。また奥書の日付によると、兩足院本『毛詩抄』と同時期の書写となる

本編冒頭五紙のみ清書されたものか、紙質や書かれ方が異なる

その清書部分以外には紙背文書があり、宛所には「宗和殿」「宗和入道」「破關齋」などが、差出には「紹長（花押）」などが確認できる

瓦坊は、管見によると法隆寺別当の居住する坊であるところから、この時期の宗和の事績や、その交友関係等がうかがえるものと思われる

昭和法宝総目録本では、「第百四十六番」に著録されているが、現在所用目録には未掲載

ZDA No. : 番外7

8 「伝庵和尚大徳寺視篆法語」 写本 一括

〔伝庵宗器〕撰

一紙形態（紙帯括り） 共紙表紙

二五・五×二二・〇 十六紙（含表紙二紙、後遊び紙一紙）
〔本文〕漢字 每半葉九行から十二行

〔外題〕「視篆語／傳菴入寺法語 全」（表紙左上 直書、墨書）

〔首題〕「本寺視篆拙語 傳菴」

〔印記〕首題部分「兩足院」（朱陰長方飾枠）

〔書入〕朱点・朱引あり

〔備考〕もと袋綴装と思われるが、綴じ糸が外され、紙帯で一括りにされている

伝庵宗器（？）一五三三）は大徳寺第八十八世。

本書は、伝庵の大徳寺入寺式の法語を取めたもの。入寺法語の尾に「大永八歳（一五二八）四月十二日」、退院上堂の尾に「大永八年四月十四日退院畢」とあり、具体的な日時が判明する

真珠庵本（『大徳寺禅語録集成』第三卷所収 大本

山大徳寺、一九八九年）には、登座の下に「忘却此語故小參釣語及之」とあるが、本書ではこの部分は見られない。ちなみに真珠庵本では、これに続けて「山門疏 常庵筆」などが記載されている

また、紙背文書が確認できる。宛所には春松院とみられるものがあるが、春松院は以天宗清

(一四七二)「一五五四」が名乗っていた寺院名であり、伝庵と同時代、室町後期のものと推測することも可能かと考える

現在所用目録の「第七十一番」に著録される

「視篆拙語(写) 一」カ

ZDA No. : 番外 8

一五 木箱 (二件二点)

〔備考〕 蓋箱天板の右上に「第六拾八番」、左上に

「花上集 / 188 大雅遺韻 1 冊」、側面に「188

大雅遺韻(写) 一冊 / 168 以篤禪師(写) 一

冊」の貼紙あり

【第六十八番】

(64) 信仲篤禪師疏・「以篤禪師疏」 写本 一冊

信仲明篤(以篤) 撰

袋綴装(四つ目綴) 右上から左下への柿渋刷毛目表紙

(後補、高峰東峻カ)

二五・八×二二・八 七十六丁、表紙二紙

〔本文〕 漢字 每半葉十三行

〔外題〕「一」(信仲)篤禪師疏(表紙左上 書き題簽、墨書、高峰東峻筆)

〔文首〕「山門疏 日本釈 以篤 信仲 / 大愚和尚住恵

日……

〔文尾〕「…況是丈人之行力、興先業母負遠期」

〔印記〕 卷首、「兩足院」(朱陰長方飾)

〔備考〕 信仲以篤は明篤ともいい、聖一派の人。四六文の作成に秀で、惟肖得巖や江西龍派等と並び称されたという。本書は、その信仲の四六文集

昭和法宝総目録本では「第四十二番」に「信仲疏(寫) 一」、現在所用目録では「第六十八番」に「以篤禪師疏(写) 一」と記載される

この書は、当院第十三世・高峰東峻によって改装されたとみられる。また、外題については、「篤」以上が剥落しているため明らかではないが、「篤」字の上は二字程度の空きであり、かつ二文字目に人偏らしき部分が見えるので、この書も、高峰がよく用いた道号に法名の系字を省いた下字のみを連ねて「禪師」を付ける命名法(この命名法については、玉村竹二氏の「惟肖巖禪師疏」の解説「惟肖得巖集解題」二「諸本」10『五山文学新集』

第二巻、東京大学出版会、一九六八年）を用いて命名され、題簽が認められたと推測される。本編は、室町後期の寄合書による筆写とみられ、小口書に「信仲疏」とある

前遊び紙（もと見返しカ）表左上に「二二、以篤禪師疏 兩足院藏／老冊 一六八」と墨書された短冊状の和紙が貼り付けられている。冊首に「以篤禪師疏（写）1冊」とある和紙と、片面に「集22／以篤疏老冊」もう片面に「百六十八／京都東山建仁寺塔頭／兩足院」とある荷札あり

ZDA No. : 168-16

(65) 花上集・「大雅遺韻」 写本 一冊

文挙国契（文学契選） 編

袋綴装（紙縫留） 共紙表紙

前半・二七・八×一九・八、後半・二三・六×一七・八

二十三丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 丁表面每半葉十一行、裏面十行

〔外題〕「大雅遺韻」（表紙左上 書き題簽、墨書）

〔首題〕「花上集」

〔印記〕卷首「兩足院」（朱陰長方飾枠）、題簽「竹／□」

（朱陰円印）

〔書入〕部分的に朱点・朱引あり

〔備考〕室町時代の詩集

内容は、義堂周信や絶海中津等、二十人の詩が十首ずつまとめられており、成立は彦龍周興の序に「享酉」とあるところから、長享三年（一四八九）とみられる。『統群書類従』巻第三三二〇（第十二輯上）に掲載

編者については、一般的に「文挙国契」とされるが、序に「玉府文學少年」とあるのみで、「国契」の名は確認できない。また、『東山歴代』（高峰東峻撰、兩足院藏）には「文挙（契）選 越雪 住光音山門疏紫岩下○花山集ヲ選フ人乎」とあり、また玉村竹二氏の『五山禪僧傳記集成』（思文閣出版、二〇〇三年）や、市木武雄氏の『五山文学用語辞典』（統群書類従完成会、二〇〇二年）等においても同人と記載しているため、（ ）内に補記した

本書は、序文から「謙巖」までは他本と同じだ

が、その次が「鄂隱」、「惟肖」という順番になっており、「惟肖」以降は鈔配。また、この部分は順番がまったく他本と異なっており、若干異同もあるようである。

さらに、「花上集」が終わった次の丁に、杜甫の「碧瓦初寒外」や「晚涼看洗馬」等を題した句の残欠(二丁のみ)がある。『大雅遺韻』の名称は他本では確認できず、管見ではこの兩足院本のみなのだが、もちろん他本にこの杜甫の詩の部分はない。となると、この部分が「大雅遺韻」という可能性もあるのではなからうか。

裏表紙には、前半の「惟肖」の部分が、裏返して使用されている。

昭和法宝総目録本では「第五十七番」に著録
冊首に「57大雅遺韻 花上集 1冊」と「168大雅遺韻(写) 1冊」とある和紙が入る

ZDA No. : 168-18

一六 木箱 (二件三点)

〔備考〕「第百六十八番」、「竹居集」同箱

身箱に「竹居集 二 江西一節集 一 / 一六八」の貼紙あり

【第百六十八番】

(66) 江西一節集 写本 一冊

心田清播編

袋綴装 (四つ目綴) 香色表紙

二二・二二×一六・〇 三十一丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十六行・一行二十字

〔首題〕「江西一節集」

〔尾題〕「江西一節集終」

〔備考〕桃山時代から江戸初期の成立

玉村竹二氏による「江西一節集」の解説(心田清播集解題)「二 諸本」11 『五山文学新集』別巻二)の中に、「巻首に『兩足院』の白文朱印がある」と記載がある。しかし、該書においては、成立や字数などの特徴には合致するものの、印記は見られない。

表紙右下に「月(カ)」の朱書あり

ZDA No. : 168-49

一七 木箱 (三件三點)

〔備考〕蓋箱に貼紙があるものの、剥落箇所が多く確認でき

ず〔天□〔葩〕〕／〔□□〔遺録カ〕／〕

【第百六十八番】

(68) 天葩雑集 写本 一冊

江西龍派撰「南江宗沆」筆

袋綴装(五つ目綴) 薄茶色表紙

二七・〇×二〇・八 百五十丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十七行・一行二十七字

〔首題〕「天葩雑集」

〔奥書〕「續翠撰此集之始、沆南江書焉。翠傳九淵。九

淵遊大明之日、吾以／先靈源翁所寫、換此一冊。

欲傳諸末世、貴其始也。統志焉」

〔印記〕卷首、「兩足院」(朱陰長方飾枠)、「即宗院」(朱

陽長方印)、卷尾、識語下、「正／宗」(朱陽方印)、

「九／淵」(朱陽方印)

〔書入〕朱点・朱引あり

〔備考〕江西龍派(？)一四四六は、建仁寺靈泉院開基

の一庵一麟(一三三九～一四〇七)の法嗣。本書

はその抄録集とみられ、序・記・書・劄子・表・

策問・伝・賛・論・説・祭文・碑・跋・雜文・
録から構成される

末尾の正宗龍統(一四二八～一四九八)の奥書に
よると、この書は南江宗沆の筆で、裏表紙見返し
に、当院第二十世・後藤東交師による、「京都相
国寺ノ禅僧ナリ。宗沆字南江ト云フ／號ハ漁菴ト
云、相国寺ニ在リテ詩名アリ。後／法衣ヲ脱シテ
俗ニ飯シ、和泉堺海會寺／ニ寓シ漁菴ト號ス。著
作鷗巢集アリ／昭和庚午五仲春 龍宗東交誌」の
貼紙がある

また、識語には、この書は江西龍派から九淵龍
際(？)一四九八)に伝来したが、九淵が中国・
明で遊学している間に、正宗によって靈源翁(瑞
巖龍惺・一三八四～一四六〇)の写したものと、こ
の本を交換したことが述べられている

小口書「天葩」
冊首に「五〇、天葩雑集 沓冊 兩足院藏」と
墨書された短冊状の和紙あり

ZDA No. : 168-27

(70) 見聞録・古徳入寺語 写本 一冊

咄々子編

袋綴装(四つ目綴) 左上から右下への柿波の刷毛目表

紙(後補表紙)

二四・四×二〇・〇 八十五丁、表紙二紙、遊び紙二紙

〔本文〕 漢字 每半葉十五行

〔外題〕 「見聞録(古徳入寺語) (表紙左上・書き題簽、

墨書)

〔首題〕 「見聞録卷第一/咄々子編集」

〔印記〕 卷首「兩足院」(朱陰長方飾枠)

〔書入〕 朱点入り

〔備考〕 本書は、入寺法語を集めたもので、義堂周信や

絶海中津をはじめ四十人以上による八十以上の

語が掲載されている。首題には「見聞録卷第一」

とあるが、卷二以降は見られない。

恐らく当院第十三世・高峰東峻師によって改装

されており、題簽もその時に師によって認められ

たものと思われる。また、前遊び紙表にも、師に

よる「此編所載之語今其本録泯滅不伝者多矣如無

等子(子璩) / 履中勉之夢菴草堂大拙遠芳等

是也 / 編者咄々子未詳誰人觀其所編則蓋天文以前

之人也」の墨書がある

編者の咄々子については未詳であるが、室町後

期ごろの成立と推測される

冊首に「五三、見聞録 壹冊 兩足院藏」と墨

書された短冊状の和紙あり

ZDA No. : 16841

〔番外〕

9 太清和尚語録 写本 一冊

太清宗渭撰

袋綴装(紙縫留) 素紙表紙(新補、近代以降)

二九・五×二三・七 五十四丁、表紙二紙

〔本文〕 漢字 每半葉十二行から十四行・一行二十三字

程度、不定

〔外題〕 「太清宗渭和尚語録」(表紙左上 書き題簽、墨書)

〔文首〕 「索話 / 「」 句全提、直下更無纖翳、千車

合轍、玄機隨處齊彰、衆中……」

〔文尾〕 「……十二入十八界、一切万有無非自己、本来面

目、本地風光□患今」

〔備考〕 太清宗渭(一三三二～一三九二)は、雪村友梅の

法嗣

内容は、相州路青龍山東勝禅寺(語)、相州路金宝山淨智禅寺語、播州路赤松山宝林永昌禅寺語録、太平興国南禅寺入院、南禅再住、相国承天禅寺語録で構成されている

冒頭三丁ほど裏書が見られるが、裏打補修によつて確認できず、また、ところどころ若干の互い違いが生じているようにもみられる

表紙は、近代になつて付された(補修も同時力)と推測される。その表紙右上および最終丁裏の左端に、「太清和尚諱宗渭嗣法雪村」(直書、墨書)とある

現在所用目録には未収だが、昭和法宝総目録本では「第四十六番」に著録

ZDA No. : 番外-9

一八 木箱 (二件二点)

〔備考〕「第三十番」、「禅苑清規総要」同箱

天板右上に「第百六拾九番」の貼紙、右下に「劔関禅師語録 169 / 禅苑清規 一冊 30」の付

箋、身箱に「劔関禅師語録 一」と「禅苑清規 一」の貼紙あり

【第百六十九番】

〔9〕 劔関和尚語録 刊本〔宋版〕一冊

〔宋〕劔関子益撰 善珙・徳修等編

線装本(四針眼) 黄色裂表紙(後補表紙)

三〇・〇×一九・六 三十八丁、表紙二紙、遊び紙・前

二紙・後二紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 二〇・四×一四・三

〔版心〕序のみ双黒魚尾、白口 下方に「丁幾」

〔本文〕漢字 每半葉十行・一行十八字

〔外題〕〔表紙左上 無地題簽貼付〕

〔首題〕「劔関和尚初住隆興府興化禅寺語録 / 侍者 善

珙 徳修 編」

〔尾題〕「劔関和尚語録終」

〔印記〕序・卷首「兩足院」(朱陰長方飾枠)、裏に「□峰

／庵記」(朱陽及枠印)

〔書入〕部分的に朱点・朱引あり

〔備考〕劔関子益(生没年未詳)は劔州(四山省)の人で、

東福寺開山の円爾と同じ無準師範(一一七八)

一四九の法嗣

本書は、南宋後期の刊行とみられる。天下の孤本と位置付けられており、漢籍で主に貴重本を保護・保存する際に用いられるという金鑲玉という方法で製本されている。裏表紙見返しに、その経緯として、「昭和十年一月／康徳二年一月（一九三五）二十八日（日本東京水野梅暁／満州長白栄厚）／命修繕書工石興周修補／兩足院藏本宋□劍閣禪師語録一／本以資法宝永存」と認められてゐる

ZDA No. : 169-10

一九 薄葉紙包（木箱）（一件一点）

〔備考〕身箱に収納（蓋箱なし）され、上から薄葉紙で包まれる

（第百七十一番）

二〇 抜：「諸書拔萃録」写本 一冊

袋綴装（紙縫留） 共紙表紙

二三・八×一八・二 二十九丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十三行・一行二十五字程度、不定

〔外題〕「抜」の大書（表紙左上 直書、墨書）、

「達磨眼睛渾不顧常尋讀作一聯詩／元

亨積書 南遊集 東皈集 廣灯高山語 普濟國

「一」／建仁開山行状 大應國師塔銘 靈洞高山

塔銘 別源塔銘／佛光塔銘（文□） 此山傳灯录

化疏 若木集拔 紫野徹翁行□／

「」（表紙中央 直書、墨書（異筆カ））

〔文首〕「少室九年 曹溪一宿 少室分皮髓 刹々宝絲

網 塵々車軸花：」

〔文尾〕「：應永乙巳（三十二年・一四二五）三月日／住

靈山德禪第四世孫小比丘禪興謹状」

〔書入〕朱点・朱引、上部の空白に朱書での注記あり

〔備考〕語録などの拔萃集

内容は、「中峰広録」、元亨積書、南遊集、東皈

集、建仁開山行状、如是院此山和尚天潤庵伝灯録

化縁疏（重刊景德伝灯録疏）、靈山德禪寺徹翁義

亨禪師行状ほかで構成

ZDA No. : 170-2

二〇 布帙(一件八点)

〔備考〕「莊子集注」「石印」の題簽あり

題簽

〔首題〕「莊子集釋卷一／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔尾題〕「莊子集釋卷一終」

〔番外〕

10 莊子集釈 刊本〔唐本〕 十卷 八冊

郭慶藩孟純輯

第二冊：一九・九×一三・二 三十一丁、表紙二紙

〔外題〕「莊子集釋〔掃葉山房石印〕」(表紙左上 原刷り)

題簽

〔首題〕「莊子集釋卷二／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔尾題〕「莊子集釋卷二終」

印

〔匡郭〕四周双边・無界

〔版心〕单黑魚尾、下横單線 魚尾上「柱題」、魚尾下「卷

幾」、下横線上「丁幾」、横線下「掃葉山房石印」

第三冊：一九・九×一三・二 五十二丁、表紙二紙

〔外題〕「莊子集釋〔掃葉山房石印〕」(表紙左上 原刷り)

〔本文〕漢字

題簽

〔柱題〕「莊子集釋」

〔首題〕「莊子集釋卷三／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔書入〕部分的に朱点・朱引、本文・欄上に注記(鉛筆

〔尾題〕「莊子集釋卷四終」

書き)あり

〔備考〕小口書「莊子集釋八冊」

第四冊：一九・九×一三・二 三十四丁、表紙二紙

帙題簽、剥落箇所多し

〔外題〕「莊子集釋〔掃葉山房石印〕」(表紙左上 原刷り)

題簽

第一冊：一九・九×一三・二 三十九丁、表紙二紙

〔首題〕「莊子集釋卷五／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔外題〕「莊子集釋〔掃葉山房石印〕」(表紙左上 原刷り)

〔尾題〕「莊子集釋卷五終」

第五冊：一九・九×一三・二 二十六丁、表紙二紙

〔外題〕「莊子集釋〈掃葉山房石印〉」(表紙左上 原刷り)

題簽

〔首題〕「莊子集釋卷六／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔尾題〕「莊子集釋卷六終」

第六冊：一九・九×一三・二 三十六丁、表紙二紙

〔外題〕「莊子集釋〈掃葉山房石印〉」(表紙左上 原刷り)

題簽

〔首題〕「莊子集釋卷七／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔尾題〕「莊子集釋卷七終」

第七冊：一九・九×一三・二 四十二丁、表紙二紙

〔外題〕「莊子集釋〈掃葉山房石印〉」(表紙左上 原刷り)

題簽

〔首題〕「莊子集釋卷八／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔尾題〕「莊子集釋卷八終」

第八冊：一九・九×一三・二 五十五丁、表紙二紙

〔外題〕「莊子集釋〈掃葉山房石印〉」(表紙左上 原刷り)

題簽

〔首題〕「莊子集釋卷九／湘陰 郭慶藩 孟純輯」

〔尾題〕「莊子集釋卷十終」

二一 薄葉紙包(一件一点)

〔番外〕

11 校訂莊子正文 訂正再版 刊本 一冊

〔莊子〕著

袋綴裝(四つ目綴) 茶色表紙(原) 見返しに「大正七

年四月新刊／〈校／訂〉莊子正文／觀文堂」

二二・五×一五・九 百三丁、表紙二紙

〔匡郭〕四周单边・無界

〔版心〕单黒魚尾、下横单線 魚尾上「柱題」、魚尾下

「卷之幾」・「小題」、下横線上右「丁幾」、横線下

〔觀文堂藏版〕

〔本文〕漢字、句点・返り点付

〔外題〕〈校／訂〉莊子正文〔訂正再版〕(表紙左上

刷り題簽)

〔首題〕「莊子卷之一」

〔尾題〕「莊子卷之六 終(大尾)」

〔柱題〕「〈校／訂〉 莊子正文」

〔書入〕部分的に、本文・欄上に注記あり(鉛筆・黒インク書など)

三二 布帙(二件二点)

〔備考〕帙の材質で表紙・背・裏表紙を覆い、反対側は板帙のように紐で結ぶ形状

「夢窓國師年譜〈文和三年妙葩刊／五山版〉／夢窓國師年譜〈足利時代五山僧／寫之〉」の貼紙あり

12 〔番外〕 天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜 刊本 一冊
春屋妙葩撰

袋綴装(四つ目綴、綴紐脱落ぎみ) 茶褐色表紙

二四・六×一六・七 六十八丁、表紙二紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 一八・八×一三・四

〔版心〕双黒魚尾(上下下向)、小黒口 上魚尾下「柱題」、下魚尾下「丁幾」

〔本文〕漢字 每半葉十行・二行二十字

〔外題〕「夢窓年譜」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕「天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜／臨川禪寺住持小師 妙葩 □(編)」

〔柱題〕年譜部分「譜」、西山夜話部分「話」、臨川家訓部分「訓」、塔銘部分「塔銘」

〔印記〕卷首「後宇多天皇建治元年乙亥」下「兩足院」(朱陰長方飾枠印) 首題下に異なる印記があるが、墨にて抹消

〔書入〕朱点・朱引あり

〔備考〕七朝帝師、夢窓疎石(一二七五―一三三二)の年譜 南北朝末の刊行で、川瀬一馬氏の解説(『五山

版の研究』(日本古書籍商協会、一九七〇年)では、「後の再刊と目すべき一本」と位置付ける。又丁(一十七)あり

欄上に年齢とみられる数字が記入(朱書・墨書) されているが、暦応あたりでズレが生じており、観応元年には「七十三」、二年には「七十六」とある

本書は、現在所用目録では、「第六十三番」に写本とともに二本が、「第百六十九番」(書名の下に「五山」と誌される)でもう一本が確認できる

が、その「第六十三番」の書名の欄上には、写本とともに「別」という鉛筆による記入がある

それを念頭に現状をみていくと、「第六十三番」の刊写二本が別置本の二本であることが推測されるが、「第百六十九番」の一本はその通り確認でき、かつ現在「第六十三番」に別の一本(相国寺刊)がみられるので、合計四本となる。昭和法、宝録目録本では、「第六十三番」に、「夢窓年譜 三部・写／五山版・新版・妙葩 三」とあるので、それ以降に一本増えたことが判明するが、詳細については不明である

ちなみに、取められている帙の貼紙に、「文和三年妙葩刊／五山版」(墨書)とあるが、この文和三年(一三五四)は碑銘に関する年であり、刊行とは無関係と思われる

虫損補修を施す

13

天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜 写本 一冊

春屋妙葩撰

袋綴装(四つ目綴) 茶褐色表紙

二五・八×一八・七 六十一丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十一行・一行二十字

〔外題〕「夢窓年譜」(表紙左上 直書・朱書)

〔首題〕「天龍開山夢窓正覺心宗普濟國師年譜／臨川禪

寺住持小師 妙葩 編」

〔書入〕朱点・朱引、墨書による訓点、朱書・墨書による

注記等あり

〔備考〕貞和版とみられる五山版の写し

取められている帙の貼紙には、「夢窓國師年譜

〈足利時代五山僧／写之〉(墨書)と誌される

虫損による総裏打補修を施す

ZDA No.: 番外-12

二三 布帙(一件三点)

〔備考〕「古渡録」の題簽あり

【番外】

14 古渡録 刊本 三冊

〔竹田顚川〕撰 建仁寺専門道場編

袋綴装(四つ目、康熙綴) 鉄紺色表紙(原表紙)

印刷 四周双边・無界

〔版心〕 单黒魚尾、下横単線 魚尾下「柱題」、下横線

上右「丁幾」

〔本文〕 漢字、漢字ひらがな交じり

〔柱題〕 「古渡録」

〔刊記〕 「昭和四十六年十一月九日印刷／昭和四十六年

十一月九日発行／編輯兼発行者 建仁寺専門道

場／印刷者 貝葉書院／発行所 建仁寺専門道

場」(住所省略)

〔備考〕 下半分、水濡れ痕

卷上…二三・八×一六・六 百四丁、表紙二紙、巻頭グラビ

ア十四紙

〔外題〕 「古渡録〈上〉」(表紙左上 刷り題簽・单边)

〔首題〕 「古渡録卷上／小師 某甲等編」

卷中…二三・八×一六・五 百六丁、表紙二紙

〔外題〕 「古渡録〈中〉」(表紙左上 刷り題簽・单边)

〔首題〕 「古渡録卷中／小師 某甲等編」

卷下…二三・八×一六・五 七十丁、表紙二紙

〔外題〕 「古渡録〈下〉」(表紙左上 刷り題簽・单边)

〔首題〕 「古渡録卷下／小師 某甲等編」

二四 薄葉紙包(木箱)(一件一点)

〔備考〕 身箱破損のため、蓋箱に収められ、その上から

薄葉紙で包まれる

蓋箱貼紙「節用集 ■(黒抹の下に「饅頭屋」と

誌す)本 一」

該書の巻首部分の写真(モノクロ)、同箱

【番外】

15 節用集(兩足院本) 写本 存上(自伊至久) 一冊

袋綴装(四つ目綴) 暗褐色表紙

二五・七×一九・〇 七十五丁

〔本文〕 漢字・採録語の右に片かなで振り仮名を施す

每半葉八行(注文双行)・一行十五字程度、不定

〔外題〕 「節用集」(表紙左上 直書、墨書)

〔首題〕 「節用集」

〔文首〕 「△伊 板生(丹州夜／久ノ郷在) 筏(梓)

沉石(舟ノ／礎) 簾(留魚／物也)／天／地

印度〈天然ノ也〉 一部〈奥州馬出処ノ或一閉 二五 布帙(二件二点)

伊 一口〈城州〉…

〔文尾〕「…口惜 難回避 如件 比 賦 草臥 勞

甘 窶

〔印記〕 首題下「兩足院」(朱陰長方飾枠)、「宗□(億

カ) (黒陽方印)

〔書入〕 朱点・朱引あり

〔備考〕 室町末期から近世初期の成立とみられる

印度本の系統で、「伊」より「久」まで

「伊」の下、追加語句と思われる語彙が書して

あるうち、「筏」と「沈石」については国会図

書館蔵『伊京集』など他の本でも確認できるが、

「板生」と「籟」については未掲載で、両足院本

のみで確認できる

小口書「上自伊至久」(朱書)

現在所用目録には未収だが、昭和法宝総目録本

では「第百四十八番」に著録

ZDA No. : 168-番外-15

〔備考〕 帙の材質で表紙・背・裏表紙を覆い、反対側は

板帙のように紐で結ぶ形状

「明月記〈文祿五ノ年校〉ノ禪語録〈天文頃ノ

書寫〉」の貼紙あり

【番外】

16 明月記歌道事 写本 一冊

〔後成恩寺禪閣(一条兼良)抄

袋綴装(四つ目綴) 灰茶色表紙

二六・二〇・五、四十二丁、表紙二紙、原表紙二紙、

遊び紙一紙

〔本文〕 漢字ひらがな交じり 每半葉十二行(注文双

行・一行二十三字ノ二十六字程度、不定

〔外題〕「明月記(□(歌カ)「」) (表紙左上 直書、

墨書)

〔首題〕「明月記(歌道事)」

〔奥書〕「私勘云ノ定家卿ノ建保二年二月十一日 任参議

〈從三位ノ元侍從即日賜兼字) 同三年正月十三日

兼伊与(予) 權守ノ同四年正月十三日 兼治部卿

三月廿八日 辞侍從 十二月十四日 叙正三位(後

忠卿去天永二年／春日行幸行事賞／本云／以

後成恩寺禪閣殿下令書拔給御自筆之本／所書写

之也／〈本云〉此写本不審繁多之間 或推以改之

或模写字形 今求得資直卿筆之本直之／異本之由

□之猶非無不審者也／文禄五初秋五日校之

〔書入〕 朱書による書き入れあり

〔備考〕 藤原定家卿(一一六二～一二四一)の『明月

記』の和歌に関する記事について、文治四

年(一一八八)から建保四年(一二二六)までを

抄出したもので、作成者は奥書から一条兼良

(一四〇二～一四八二)と考えられている

本書は、遠藤珠紀氏の『『明月記歌道事』伝

本について』(『明月記研究』十四号 八木書店、

二〇一六年一月)によると、統群書類従本の系統

で、永青文庫本に近い特徴が確認できる

裏打補修を施してあり、収められる帙の貼紙に

は、「文禄五年(一五九六)校」とある

冊首には、「未／2010.10」と記載のある短冊状

の和紙と、「明月記」と書かれた半紙の紙片が入

る

ZDA No.: 番外-16

17 「諸書拔萃録」写本 一冊

〔茂彦善叢〕

袋綴装(四つ目綴) 赤茶色表紙

二七・〇×二〇・二 二十九丁、表紙二紙、後遊び紙一紙

〔本文〕 漢字・一部カタカナ交じり 毎半葉十五行から

十六行程度

〔文首〕 「言々錦繡句句珠璣(三)…」

〔文尾〕 「…楼明月 硯涵星」

〔奥書〕 『圓悟録』尾、「志玉都寺助鈔壹佰貫文 奇偉都

文助鈔壹佰伍拾貫文、壬申／夏五念二筆畢矣」

『鶴林玉露』尾、「右鶴林玉露自甲集至丙集而書

訖、其餘未能覽焉。有待新書□／須覓而閱之。永

正九年壬申六月廿八日 恕庵書于有隣室下」

『圓覺集解』尾、「右圓覺集解十二卷、撰善者書

之次第、紛乱□二三者在卷之所可／考写、豈永正

八曆辛未秋九月十有五、書有隣室下 恕庵」

〔書入〕 朱点・朱引あり

〔備考〕 諸書抄録・見聞集。作者は、茂彦善叢(？)

一五四一)と推定する

内容は、『圓悟仏果禪師語録』、『鶴林玉露』、『円

覚経略疏』等の抄録と、見聞した事項を誌した

もの。その中には「近代四六集拔書」や、雪嶺永瑾による「四睡図賛」、また「天文五年丙申（一五三六）十二月廿二日、大徳寺開山大灯国師正当二百年忌也：禪者、東堂二緝、西堂一緝、平僧五百文也」などの記述もみられる

また、「圓悟録」の尾にみられるのは、抄録の助筆代だろうか。そうであれば、代金を支払って拔萃録を作成していたことになる。当時、瑞溪周鳳の『刻楮集』をはじめ、多くの抄録が作成されたが、この記述は、その中で金銭を支払って作成されていたものが存在する証拠となり、大変興味深い

本書の作者とみられる茂彦善叢は、【番外】4「水上山万寿禅寺一件之事」でも関与がみとめられ、また、ほぼ同じ装幀と扱いがみられることから、これら二本の伝来には、何らかの関わりがあると思われる

冊首に「禪語録」と記された紙片（半紙・鉛筆書き）あり

ZDA No. : 番外-17

二六 紙箱（二件二点）

【備考】「第百六十八番」、「潤甫玉禅師語録」同箱
蓋箱天板に「宗門御改帳」等の墨書あり
天板右上に「第百六拾八番」、側面に「潤甫玉禅師語録 一 正宗録 一」の貼紙あり

【番外】

18 追悼偈・「潤甫周玉三十三回忌預修」写本 一冊

「潤甫周玉」

袋綴装（紙縫留） 共紙表紙

一三・七×一七・九 四丁、表紙二紙、前遊び紙一紙、

後遊び紙二紙

【本文】漢字 每半葉十三行・一行二十二字

【外題】「追悼偈」（表紙左上 直書、墨書）、「潤甫周玉

（卅三回忌）雲峰、龍興、玉岫」（表紙右上 貼紙・

墨書）

【文首】「来歳季夏念三、即先師 潤甫老漢三十三回忌

之辰也……」

【文尾】「…拱手窓前立他時 宗澄頓首」

【印記】卷首「兩足院」（朱陰長方飾枠）

【備考】本書は、潤甫周玉（一五〇四〜一五四九）の

群渴僞錢日多／真錢日少願得等施／享保七年壬寅
(一七二二) 六月 日／「／ (證明)／
賢護尊者」

ちなみに、ここでは兩足院の名前は確認でき
ず、知足院として「東竺(当院第十世・雲外東竺)」
「東養(第十一世・拙庵東養)」 「知亮」の署名がみ
られる

ZDA No. : 番外-19

20 東山建仁禪寺淋汗化縁疏 一帖

折本装 卍繋ぎ(紗綾形) 地花桐文表紙 雲母引料紙

二六・二×二二・四 十六折

〔外題〕「東山建仁禪寺淋汗化縁疏」表紙中央 書き題簽)

〔首題〕「東山建仁禪寺淋汗化縁疏」

〔日付〕「明和六年己丑(一七六九) 六月日」

〔備考〕裏表紙欠落、本紙一部固着、右側下方若干欠損

疏、「暑月淋汗其規久矣吾山産微／力乏樵汲故
募稠人欲補不足／古德銘云洗心滌慮日新又新／可
謂清昇之本施財助功其報／影響勸以短疏詞曰／驢
年洗去毘藍園裡毒花開龍泉／蕩來浮幢利海流香遠

這中參得／飽叢林話直下笑倒熱闍梨禪大／家著力
於火柴頭寒/摸體清赤肉上沙界絶
/水獲清凉自然鑊湯無冷處金體／光相之福如
指掌乎青綺文襦之／神希點頭耳／明和六年己丑六
月 日／知浴比丘 謹疏／證明／賢護尊者」

こちらも兩足院の名前は確認できず、知足院と
して「東峻(第十三世・高峰東峻)」 「玄瑠」の署
名がみられる

疏、高峰製力

ZDA No. : 番外-20

21 黄龍十世録 写本 (存卷上) 一冊

〔龍山徳見〕 無等以倫撰

袋綴装(四つ目綴、綴紐脱落) 縹色表紙

一三・三×一六・七 六十六丁、表紙二紙

〔本文〕 漢字 每半葉九行・一行二十字

〔外題〕「黄龍十世録 上」(表紙左上 書き題簽、墨書)

〔首題〕「龍山和尚住山城州東山建仁禪寺語録」

〔奥書〕 卷末「寓禪居菴下正璞謹拝写」

〔書入〕 朱点・朱引、墨書による注記あり

〔備考〕 上巻のみ

別本〔第四十五番〕12号〕では下巻末にある榮西の和歌が、「寧州兜率禪寺請龍山和尚疏」の前に記載されている

無等の序の日付の上に、「矜居陵反□／不自安見又／戒也又恭也／凌兢懼只／今一者戒与恭之義也」の墨書あり
小口書「十世□」

表紙見返しに、当院第二十世・後藤東爰師による、「旧目錄／百三番に入レ有□（リ）シ本也／昭和十三年七月卅一日／交識」の貼紙あり

昭和法宝総目錄本の「第百三番」には、「黄龍十世録（寫） 缺本 一」と記載があり、この本の存在が確認できると同時に、当時から欠本状態だったことがわかる

ZDA No. : 番外 21

22 物初和尚語録 刊本〔覆宋刊本〕 一冊

（宋）物初大観撰 徳薄等編

袋綴装 縹色表紙（原表紙カ）

二四・四× 一七・八 五十丁、表紙二紙

〔匡郭〕 左右双辺・有界 一八・七×一・九

〔版心〕 単黒魚尾、下横単線 魚尾下「柱題」、下横線

上「丁幾」

〔本文〕 漢字 每半葉十一行・一行二十字

〔外題〕 「物初□（録）（一）（一）」（表紙左上 書き題簽、墨書、題簽下「月中巖刊本／（爰）（高峰東峻）

朱陽橋円印」の貼紙

〔首題〕 「物」 「（初和尚住臨安府法相禪院語録）／」

（門人 徳薄）等 編校

〔柱題〕 「物初」

〔刊記〕 「法孫比丘圓月施財／命工鏤板以垂後學／功德

報答四恩三有」

〔印記〕 冊首「兩足院」（朱陰長方飾枠）

〔書入〕 朱点・朱引あり

〔備考〕 昭和法宝目錄本、「第四十八番」に著録

川瀬一馬氏の『五山版之研究』（日本古書籍商協会、一九七〇年）に掲載

総裏打ち補修を施す。本紙一部固着、全体的に背から一・二種ほど欠損

ZDA No. : 番外 22

23 物初和尚語録 刊本〔宋版〕 一冊

〔宋〕物初大觀撰 德薄等編

線裝本 (四針眼、綴紐脱落) 薄小豆色表紙 (原力)

二五・七×一五・九 六十一丁、表紙二紙

〔匡郭〕左右双辺・有界 一九・二×二二・二

〔版心〕单黒魚尾、下横単線 魚尾上小字「文字数」、

魚尾下「柱題」・「丁幾」、下横線下小字「刻工名」、

〔本文〕漢字 每半葉十一行・一行二十字

〔外題〕「觀物初録 完」(表紙左上 書き題簽、墨書)

〔首題〕「物初和尚住臨安府法相禪院語録／門人 德薄

等 編校」

〔柱題〕語録部不定(無題、「物」、「物初」、「物初五」、「物

初語)、法語以降「物初」

〔刊記〕「碩人魏氏道昌施財／命工鏤板以垂後學／功德

報答／四恩三有」

〔印記〕冊首、第三丁表「兩足院」(朱陰長方飾枠、冊首

「智勝／禪院」(朱陽楕円印)、「喜□」(朱陰長方印)

〔書人〕朱点・朱引あり

〔備考〕昭和法宝目録本、「第四十八番」に著録

小口書「觀物初録完」(墨書)

本紙中ほどに、「(番外)物初和尚語録 一冊」

(黒ペン書)と記された紙札あり

総裏打ち補修を施す

背上部破損、本紙一部固着

ZDA No.: 番外 23

二八 黒塗箱〔十四件三五点〕

〔備考〕蓋箱天板に「平成二十三、七末現在／未調査」

の付箋あり

【番外】

24 真文 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二四・四×二〇・二 二丁、表紙一紙

〔本文〕漢字 每半葉九行・一行二十字

〔外題〕「真文」(表紙左 直書、墨書)

〔文首〕「日本／朝鮮／時令…」

〔文尾〕「文化／對馬州」

〔備考〕江戸時代、幕府は朝鮮との外交において、南禪寺を除く京都五山に属する碩学僧を選び、對馬

の以酹庵に輪住させ、外交文書の起草などの任にあたらせた。この史料は、文化年間に朝鮮へ宛てて書かれた書契だが、冒頭の書式や末尾の署名などが省略されている

文化年間における以酹庵住持には、四年と十二年に、当院第十四世・嗣堂東緝が就任しているの
で、その時に起草したものとみられる
ZDA No. : 番外-24

25 出陣 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙
二七・九×二二・二 十五丁、表紙二紙
〔本文〕漢字 每半葉十六行・一行不定
〔外題〕「出陣」(表紙左 直書、墨書)
〔文首〕「△出陣 天文四年(一五三五) 九月廿四日 □
侍者／曹源一滴其源流也…」
〔文尾〕「…今皆学者、機関葦草罷参」
〔書入〕朱点・朱引あり
〔備考〕「出陣」は法戦に出ること、問答のために出て行くことを意味している。本書は、この語を

集めたもの
ZDA No. : 番外25

26 菩薩戒義疏科写本 一冊

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙
二六・七×二〇・三 十八丁、表紙二紙
〔本文〕漢字 每半葉十行
〔外題〕「」 「疏科」(表紙左上 直書、墨書)、表紙
右上に「暑 全」の朱書あり
〔首題〕「□(菩)薩戒義疏科」
〔尾題〕「菩薩戒義疏科」
〔原刊記〕「(慶元己未(一一九九)夏日四明／延慶教蔵
續刊行)／應永二年乙亥(一三九五) 六月十八日
彫刻畢／法勝寺住持沙門政鎮「開板良賢」(四周
単辺枠)」
〔奥書〕「□□(元亀カ) 四癸酉二月中以三井□□／急用
之間不擇紙筆之□之寫□□書之也 泉英」
〔備考〕『菩薩戒義疏』の文段を科判したもの
表紙、上部と下部(以降計三紙) 欠落
表紙見返しに、「天台大師菩薩義記科文(智證大

師述／尊通私云十重四十八輕「」／永正十八年(辛／巳)(二五二)五月至六月義記講談之次合
□「」／見之処得義□者莫太焉作者誰人哉重
「」／尊契□(記)とある

28

伝灯拔萃・「灯史拔萃録」写本 一冊

〔雲外東竺〕筆

袋綴装(紙縫留) 共紙表紙

二四・四×一七・六 十七丁、表紙一紙

〔本文〕漢字 每半葉十一行から十二行・一行二十一字から二十四字程度、不定

〔外題〕「傳燈拔萃／承應癸巳(二年、一六五三)」(表紙左

上直書、墨書)

〔首題〕「續高僧傳／唐釋道宣撰」

〔書入〕朱点・朱引あり

〔備考〕兩足院第十世・雲外東竺による抄録で、江戸時代中期の成立

内容は、唐・道宣撰『統高僧伝』(残欠カ)、宋・

道原撰『伝灯録』(前欠カ)、元・円極居頂撰『統

伝灯録』からの抜き書きと、黄庭堅撰『山谷詩

集』の私注にて構成

表紙見返しに「○一切偈名祇夜 大論(大智度

論 三十三ノ十八反)、卷頭頁には達磨の「路行

跨水復逢羊…」、神秀の「身是菩提樹…」、慧能の

「菩提本無樹…」の偈を墨書す

筆者は、冊首の付箋紙「傳燈拔萃(雲外筆)

27

〔回向帳〕 一冊

袋綴装(紙縫留) 罫紙(十行)

二二・〇×一五・八 三丁

〔本文〕漢字 每半葉十行

〔文首〕「總持猶妙藥 能療衆惑病／亦如天甘露 服者常安樂／南閻浮提大日本國山城州洛陽東山建仁寺兩足禪院住持…」

〔文尾〕「…生々紹陰(隆)佛種。處々建／立法幢。普導

含識。同生淨邦。十方三…」

〔備考〕諸々の行事で唱える回向文を抜き書きしたもの

内容は、祈祷回向、十大願文、『千手経』の大

悲呪相貌の言(大慈悲心是、平等心是…)、内仏諷

経回向、開眼供養諷経回向で構成

破損きみ

「」によった

ZDA No.: 番外 98

29 観音懺儀 刊本 一帖

折本装 雲母引料紙 一八・二×一〇・〇 四十三折

〔匡郭〕無界

〔本文〕漢字 每半葉四行・一行十二字

〔首題〕「観音懺儀」

〔尾題〕「観音懺儀」

〔書入〕黒字で節回しの音譜などが誌され、部分的に朱

引あり

〔備考〕内容は、大悲円満無礙神呪、観音懺儀、妙法蓮

華経観世音菩薩普門品第二十五で構成され、観

音経のみ六行・十七字

表紙欠

首葉見返しに「東山建」、最終葉に「昱藏主」

の墨書あり

30 「經典・陀羅尼経」 一冊

袋綴装 (四つ目綴、綴紐脱落ぎみ) 共紙表紙

一七・二×二二・一 十丁、表紙二紙

〔本文〕漢字カタカナ交じり、ルビ入

〔外題〕「諸 陀羅尼経」(表紙左上 直書、墨書)

〔文首〕「○金剛壽命陀羅尼経／唐南天竺三藏金剛智

共沙門智藏奉紹譯／唵：」

〔文尾〕「平等大智 今將頂禮」

〔備考〕陀羅尼などの抜き書き

内容は、金剛壽命陀羅尼経、聖六字増寿大明陀

羅尼、増慧陀羅尼、仏説大愛陀羅尼経、仏説除一

切疾病陀羅尼、略一切経、仏説文殊経、略文小法

花、南無金剛堅固勝会三仏、仏説呪目経、浄眼陀

羅尼、不動明王呪、釈迦□呪、舍利礼などで構成

表紙見返しに「両足院／京都府京都市／建仁寺町

四條南四□□／建仁寺山内両足院」、最終頁に「建

仁寺山内／両足院／會下用」、裏表紙に「明治拾七

歳三月廿九日寫之／建仁寺内両足院室ニ於テ／美

濃國／美濃國中嶋郡八神村□□所持」の墨書あり

31

〔金剛般若波羅蜜經〕 殘欠 刊本 一纏

折本裝 雲母引料紙 二〇・六×七・二 九折

〔匡郭〕 無界

〔本文〕 漢字 每半葉五行・一行十七字

〔文首〕 「於法實無所得。須菩提於意云何。菩薩莊嚴：」

〔文尾〕 「：最上乘者說。若有人。能受持讀誦。廣爲人說」

〔備考〕 破損、表紙欠

「莊嚴淨土分第十」の前半から「持經功德分第十五」の中ほどまで

〔印記〕 「金剛經啓請」下、三種印記あるも印影不明瞭
〔備考〕 冒頭絵入り
末尾に「右經ノ第一分ノ著衣ノ著ノ字張畧切清

32

金剛般若波羅蜜經 刊本 一帖

折本裝 灰青地蓮華模様 (原表紙、裏表紙無)

二五・七×九・〇 四十五折

〔匡郭〕 界線無

〔本文〕 漢字 每半葉五行・一行十七字

〔外題〕 「□(金) 剛般若波羅蜜經」 (表紙中央 原刷り題

簽

〔首題〕 「金剛般若波羅蜜經」後秦弘始年鳩摩羅什於

長安逍遙園譯

〔尾題〕 「金剛般若波羅蜜經」

裏表紙欠洛

〇

末尾に「右經ノ第一分ノ著衣ノ著ノ字張畧切清
テ可ノ讀餘ハ皆濁音也同ク入舎衛ノ入ノ字ニツ
トツメテ可讀〇ノ經中字ノ右ニ〇アルハアタリテ
可讀後文做初ノ經中ノ不不也ハ上ハフノ音下ハホ
ツノ音詳于ノ韻書ノ經中ニ法相トツ、ク處ホツト
ツメテ可讀餘ノハ皆ツムヘカラス非法相ヲモツムヘ
カラスノ用ノ字皆イユウト可讀呉(ハ)イユウ漢
(ハ)イヨウ也ノ涕淚ノ涕ノ字タイト可讀呉(ハ)
タイ漢(ハ)テイ也ノ訓讀ノ時(ハ)テイト可讀
ノ尚恨賤等ノ字見字書皆是濁音也然レトモ古ノ來
清音(ニ)用來レリ以故不改之但シ法尚應ノ捨ノ
尚ノ字濁テ可讀〇ノ斯經世誦者多不音句正讀惜乎
令世尊ノ之聲教少其持誦之功仍爲其分句間加ノ黑
點其不誤者措之且以其中難知亦皆ノ附于此而理以
假名其字義及切等詳出ノ于韻書(并)諸經音義等

33 悦可寮須知 一帖

折本装 薄橙色 一八・二×九・〇 十六折

〔外題〕「悦可寮須知」(表紙中央 書き題簽、墨書)

〔文首〕「(朔/日) / 祝聖(大悲呪/消災呪)」就祖堂

諷經(楞嚴呪/通回向)……

〔文尾〕「…布薩/上塔諷經/夏中ニハ則火徳放參早晨

□(日カ)中諷經無/自四月五日至七月十四日□

之」〔奥書〕「文化九年(一八二二)/四月廿二日」

〔備考〕紙背に「望闕樓」「阿弥陀堂」「佛誕生」「開山

千光忌」「將軍諱」等の回向文の部分や「聲出葉

法」などが認められている

ZDA No.: 番外 33

34 〔經典〕一帖

〔朴宗東備〕ほか筆

折本装 縹色(はがれきみ) 雲母引料紙

一三・八×八・一 十九折

〔本文〕漢字・カタカナ・梵字、一部に返り点・ルビが

入る

〔文首〕「佛説多聞強/記陀羅尼咒/浮多弗嚩…」

〔文尾〕「…△須咒水七偏(徧) 與病人飲之無過三五度
即差」

〔奥書〕「東備沙弥」

〔備考〕各種法要や日常の勤行で使用していたとみられ

る私製の経本

内容は、真言および經典各種で構成

奥書に「東備沙弥」とあるところから、当院第

十七世・朴宗東備の私物と推定される

35 〔護摩供次第〕写本 一冊

袋綴装(四つ目綴) 共紙表紙

一四・〇×一九・九 三十五丁、表紙二紙

〔本文〕漢字 每半葉十三行・一行不定

〔文首〕「口傳云、天等ヲ供スルニハ…」

〔文尾〕「…無量/聖衆眷屬前後圍繞」

〔奥書〕「御本云、以御本書之畢/弘長二曆(一二二六)〇

正月十三日於□□(醍醐)寺、以報恩院僧正、御

本書/写并校点了。仰云、遍智院御説兔同年

十二月廿四日/僧正御房奉傳授了。頼瑜/或写

本云/文永十年(一二七三)三月廿四日、賜覚洞

36

〔備考〕「備忘録」一冊

袋綴装(包背装) 共紙表紙

一四・〇×二〇・〇 三十四丁、表紙二紙

〔文首〕「大正三年十月十七日：」

〔文尾〕「：大正四年七月七日／相国寺中長得院／小島

文鼎(花押)」

〔備考〕大正三年(二九一四)から同四年までの備忘録

内容は、大正三年十月十七日と同四年三月

二十五日の図書(「天台(宗義集／小部集)」一冊)

〔備考〕護摩壇の莊嚴などの解説で、一部、図入り

内容は、毘沙門天法、不動法、不動護摩私記で

構成。巻首に勝俱胝院のものという口伝を、末尾

に不動法道場觀の拔萃(不動明王像)を誌す

ZDA No. : 番外-35

37

饅頭屋町合塔ノ碑文 二十二紙

後藤東交撰

一紙形態 三九・五×二七・三 一紙

〔本文〕漢字カタカナ交じり

〔首題〕「饅頭屋町合塔ノ碑文」

〔識語〕「昭和六年(一九三一)五月建之／京都市中京區

烏丸通三條南入／饅頭屋町祠堂係謹白／兩足院

十九世龍宗識」

〔備考〕すべて同版、計二十二紙をまるめて収納。内容

は、伊藤東慎師の「黃龍遺韻」(兩足院、一九五七

年)に全文が掲載されている

撰者の後藤東交師は、現在、兩足院第二十世に

数えられているが、この碑文では自ら十九世と誌

している

欄外に、「昭和九年五月拝領複寫 松本軒公木

文庫」とあり

(一五九) 時のもの
ZDA No.: 番外 38

二九 布帙(五件五点)

〔備考〕帙の材質で表紙・背・裏表紙を覆い、反対側は

板帙のように紐で結ぶ形状

「建仁寺碩學料納帳(天正 慶長/元和)」の貼

紙あり

39 建仁寺常住臨時并定下行帳・慶長七寅年 十月吉日

一冊

豎帳

二七・二×二〇・八 九丁(含、表紙二紙) 墨付七丁

〔外題〕「慶長七寅年/建仁寺常住臨時(并) 定下行帳

／十月吉日

38 西院村水帳・天正十九(辛卯)年 十月廿八日 一冊

豎帳

二九・〇×二・七 十二丁(含、表紙二紙) 墨付七丁

〔外題〕「天正十九(辛/卯)年/西院村水帳 建仁寺

／十月廿八日

〔文首〕「(□□町かいと) / 畠 貳畝 参斗九升七合

常光 □□

〔文尾〕「都合百貳拾七石六斗壹升四合」

〔備考〕「水帳」は検地帳のこと。この帳簿は、貢租賦

課のための基本台帳。耕地の名称・広さ・名

請人の名称などを記録したもので、天正十九年

40 両足院碩學料納帳・元和元(乙卯)年 十月吉日

一冊

豎帳 三〇・五×二一・五 十六丁(含、表紙二紙) 墨付

十四丁

ZDA No.: 番外 39

〔外題〕「元和元(乙卯)年／両足院碩学料納帳／十月吉日」

〔文首〕「碩学料散在帳／△京廻在之分」

〔文尾〕「惣都合四拾石參斗五升二合(此外參□三合ハ

／著□不足)」

〔備考〕元和元年(一六一五)時における両足院の碩学

料徴収の帳簿。耕地の広さ・納める量・名請人の名称などが記載されている。

ZDA No.: 番外-40

41 両足院碩学料納帳・元和四(戊午)年 十月吉日

一冊

堅帳 三〇・一×二・九 二十三丁(含、表紙二紙) 墨

付十六丁

〔外題〕「元和四(戊午)年／碩学料帳／十月吉日」

〔文首〕「碩学料散在帳／京廻在之分」

〔文尾〕「西院(二)在之分／參石貳斗八升六合 □兵

衛

〔備考〕両足院碩学料徴収帳簿の元和四年版

中に、桃源瑞仙の『史記抄・史記桃源抄』「秦

本紀」の残欠(写本 一紙のみ 綴り痕らしき小穴が確認でき、もと冊子と思われる)が入る。

同書は現在、当院の蔵書中では見当たらない

が、当院第十世・雲外東竺が編んだという、寛文

四年(一六六四)付の書籍目録の「儒書之類」に、

「史記桃源抄(不足) 十九冊」と所在が確認でき

るところから、当時あったものが何らかの理由で散逸したうちの二紙、または、底本未詳本の写し等と推測される。

ZDA No.: 番外 41

42 「建仁機縁」残決 写本 一紙

一紙形態 二五・二×一六・五 一紙

〔外題〕「建仁機縁 四冊之内／大統院／十如院／興善

院／瑞光菴／光澤菴／禪居菴／妙喜菴」(表紙中

央 直書、墨書)

〔備考〕表紙のみ

同じ形態のものが、建仁寺両足院所藏聖教目録

I～III「第百五十七番」の24号1～3番で確認で

きる。

本書も恐らく同一の筆者とみられ、掲載される塔頭からも、本書が存在すれば「四冊之内」の一冊として、四冊揃となると思われるが、残念ながら内容は不明

ただし、題名の「建仁機縁」が、「第百五十七番」24号では左肩であるのに対し、本書は右上に認められているので、同書の草稿か別本と考えるのが妥当と思われる

三〇 紙帙(一件二点)

〔備考〕表紙中央に題簽、「地藏菩薩本願經」〈句讀假名／新板改正〉(摺り題簽)あり

〔番外〕

43 地藏菩薩本願經 刊本 二帖

折本装 藍鼠色表紙(原表紙) 雲母引料紙

無辺無界

〔本文〕漢字、総ルビ入り 每半葉四行・一行十七字

卷上…二二・九×七・八 六十四折

〔外題〕「地藏菩薩本願經卷上」〈假名／改正〉(表紙中
央 刷り題簽)

〔首題〕「地藏菩薩本願經卷上」于闐國三藏沙門 實又

難陀 譯

〔尾題〕「地藏菩薩本願經卷上」

卷下…二二・九×七・八 六十四折

〔外題〕「地藏菩薩本願經卷下」〈假名／改正〉(表紙中

央 刷り題簽)

〔首題〕「地藏菩薩本願經卷下」于闐國三藏沙門 實又

難陀 譯

〔尾題〕「地藏菩薩本願經卷下」

〔備考〕無刊記

三一 木製経箱(一件八点)

〔備考〕蓋箱と身箱、金属で固定

〔番外〕

44 妙法蓮華經 刊本 八帖

折本装 紺地蓮華唐草文表紙(原表紙) 四周単辺・無界

〔本文〕漢字 一部ルビ入り 每半葉四行・一行十七字

〔刊記〕元祿五年壬申(一六九二)二月吉旦/天保五年

甲午(一八三四)再刻 慈海宋順 校正、雉東

書師 岡村元春樓敬書寫/洛陽書林 北邨吉兵

衛刊行/伊藤 次郎兵衛

卷第四…二八・二×九・〇 六十二折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第四」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經五百弟子受記品第八 四」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第四」

卷第五…二八・一×九・〇 六十七折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第五」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經提婆達多品第十二 五」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第五」

卷第六…二八・一×九・一 六十五折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第六」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經如來壽命品第十六 六」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第六」

卷第一…二八・二×九・〇 六十五折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第一」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經序品第一/姚秦三藏法師鳩摩羅什

奉 詔譯」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第一」

卷第二…二八・二×九・一 七十五折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第二」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經譬喻品第三 二」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第二」

卷第三…二八・二×九・〇 七十一折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第三」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經藥草論品第五 三」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第三」

卷第七…二八・一×九・〇 六十折、表紙二紙

〔外題〕「妙法蓮華經卷第七」(表紙左上 金色刷り題簽)

〔首題〕「妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十 七」

〔尾題〕「妙法蓮華經卷第七」

卷第八…二八・二×九・一 五十四折、表紙二紙

- 〔外題〕「妙法蓮華經卷第八」(表紙左上 金色刷り題簽)
〔首題〕「妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五 八」
〔尾題〕「妙法蓮華經卷第八」

